第3章
日常生活圏域ごとの
地域特性

1　大田区の日常生活圏域

日常生活圏域とは、その住民が日常生活を営んでいる地域として、地理的条件、人口、交通事情その他の社会的条件、介護給付等対象サービスを提供するための施設の整備状況、その他の条件を総合的に勘案して定める区域として、介護保険法により、設定することとされています。国では、おおむね 30 分以内に必要なサービスが提供される区域としており、大田区では、18 の特別出張所の管轄区域を日常生活圏域としています。

図表3-1 大田区の日常生活圏域

【4基本圏域と 18 日常生活圏域】

基本圏域	大森	調布	蒲田	糀谷･羽田
日常生活圏域	大森西 入新井 馬込 池上 新井宿	嶺町 田園調布 鵜の木 久が原 雪谷 千束	六郷 矢口 蒲田西 蒲田東	大森東 糀谷 羽田

2　各圏域の状況（地域カルテ）

(1) 地域カルテについて

第9期計画においては、地域包括ケアシステムをさらに発展させた「大田区らしい地域共生社会の実現」に向けた取組を進めていきますが、そのためには、区内の各地域における現状や特徴を把握することが必要です。

本章では、「地域カルテ」という形で日常生活圏域ごとに高齢者人口等の状況と推計、高齢者等実態調査でのリスク分析、「大田区シニアの健康長寿に向けた実態調査 2022」の結果によるフレイル該当率、運動習慣、食習慣、社会参加の状況等、また、通いの場の団体数やその種類、地域における課題と取組等を示しました。

この「地域カルテ」は地域住民の方や関係機関・団体等が地域課題を共有し、今後の取組などをともに考える基礎資料として地域ケア会議*やその他地域での会議・活動等に活用することを想定したものです。そして、それぞれの地域において本計画の基本理念である「高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らせるまちをつくります」との方向性に沿った取組が進むよう、区は「大田区らしい地域共生社会の実現」を視野に継続的に支援していきます。

地域カルテの記載事項は以下のとおりです。また、各地域の掲載は、大森、調布、蒲田、糀谷・羽田の基本圏域に属する日常生活圏域順になっています。

【地域カルテの記載事項】

1　地域の人口等

大田区住民基本台帳に基づく令和5年 10 月1日現在の人口です。

また、有事の際などの高齢者の見守りを目的とする見守りキーホルダーの地域別登録者数も掲載しています。なお、大田区全体の登録者数は 36,914 人です（令和5年9月末現在）。

2　高齢者人口の将来推計

令和5年 10 月1日現在の高齢者人口を基礎数値として、本計画の計画期間である令和6年度から令和8年度及びその後の令和 22（2040）年度の人口を推計したものです。なお、参考値として推計したものであり、将来の各地区の推計人口の合計は、8 ページ 第2章1(1)の推計人口とは一致しません。

3　要介護認定率の推移

令和2年度と令和5年度の要介護認定率の推移を男女別・年齢階級別に示しています。

4　介護予防・日常生活圏域ニーズ調査におけるリスク分析

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査は、「要介護状態になる前のリスクの状況」、「各種リスクに影響を与える日常生活の状況」を把握することを目的に構成されたものです。

この調査結果に基づき、「運動機能」・「転倒」・「閉じこもり」・「低栄養」・「口腔機能」・「認知機能」・「手段的日常生活動作*（IADL）」・「うつ傾向」の8つの評価項目によるリスク分析を行いました。大田区全体の結果については、次のとおりです。

令和4年度大田区高齢者等実態調査・高齢者一般調査の結果から
算出した指標の一覧（「リスクあり」と判定された大田区全体の割合）

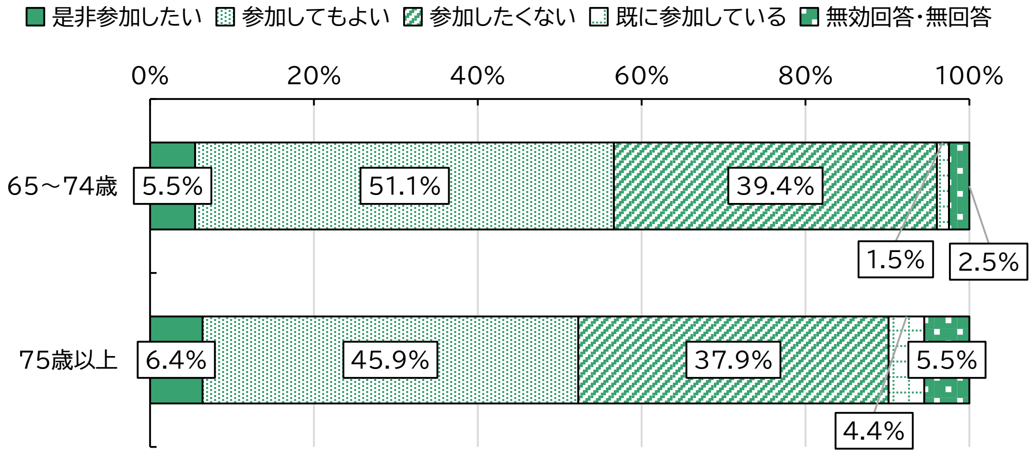
運動器の機能低下 11.9%	転倒リスクあり 27.8%	閉じこもり傾向あり 17.5%	低栄養状態の疑い 9.1% （低栄養状態 1.9%）
口腔機能の低下 22.7%	認知機能の低下 40.8%	手段的日常生活動作（IADL）の低下 9.2%	うつ傾向あり 42.9%

5 地域づくりへの参加意向

令和4年度大田区高齢者等実態調査より、地域づくり活動へ参加者としての参加意向があるかという設問の結果を掲載しています。

大田区全体の結果については、次のとおりです。

図表3-2 地域づくり活動への参加意向（参加者として） 高齢者一般調査



※各地域の結果との比較を行う観点からウェイトバック集計前の数値を記載しており、令和4年度大田区高齢者等実態調査報告書に記載の数値とは異なります。

6 「大田区シニアの健康長寿に向けた実態調査 2022」結果（抜粋）

「大田区シニアの健康長寿に向けた実態調査 2022（大田区・東京都健康長寿医療センター研究所）」より、日常生活圏域ごとの高齢者のフレイル該当率や運動実践状況・体力に関する結果、食品摂取多様性に関する結果、心理・社会参加に関する結果を掲載しています。各項目の記載事項については、次ページのとおりです。

〇フレイル該当率

「一日中外出せずに家の中で過ごすことが多いか」、「この一年間に転んだことはあるか」、「最近食欲はあるか」など、15 項目の介護予防チェックリストによりフレイルに該当すると判定された方の割合を示しています。

〇運動実践状況・体力に関する結果

「週当たりの歩行時間が 150 分未満の方の割合」、「週に1回以上、筋力運動を実践している方の割合」、「週に1回以上、体操・ストレッチを実践している方の割合」、「1kmの距離を続けて歩くことができる方の割合」を示しています。

〇食品摂取多様性に関する結果

「過去1週間に、肉・魚介類・卵・牛乳・大豆製品・緑黄色野菜・海藻類・いも・果物・油脂類の 10 品目中、『ほぼ毎日(週に5日以上)食べる』品目が3点以下の方の割合」を示しています。

〇心理・社会参加に関する結果

「『今の生活に満足しているか』など、心身の状態を問う5つの設問における抑うつ該当者の割合」、「同居家族以外の人と週に一度も交流していない社会的孤立状態の割合」、「ボランティア・市民活動の団体やシニアクラブ*、自治会・町会等の社会活動のいずれかに、月1回以上参加している割合」を示しています。

7 通いの場

株式会社ウェルモが介護事業者や専門職等に向けて運営する地域資源情報の見える化サイト「milmo net(ミルモネット)」に、令和5年7月31日現在、大田区内の「通いの場」として登録されている団体の情報を抽出したものを主として地図上に表したものです。

※株式会社ウェルモと大田区は「大田区の地域資源の見える化及び活用の推進にかかる連携協定」を締結し、高齢者支援に必要な地域資源情報の活用を推進しています。

8 地域の現状と課題・課題への取組

高齢者をとりまく地域の現状や課題、また、その課題への取組について、地域の実情や前述の令和4年度大田区高齢者等実態調査、大田区シニアの健康長寿に向けた実態調査 2022 などの結果も踏まえつつ、地域包括支援センターと特別出張所とが中心となり、地域福祉課の支援並びに地域の方のご協力をいただきながらまとめました。

(2) 各地域の状況

大森西

地域データ

【地域の人口等】

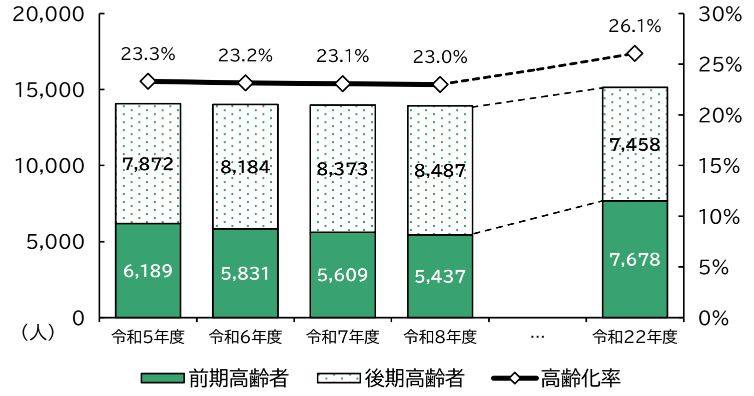
管轄人口:60,305人
高齢者数:14,061人(23.3%)
(うち単身高齢者数:5,681 人)

単位:人

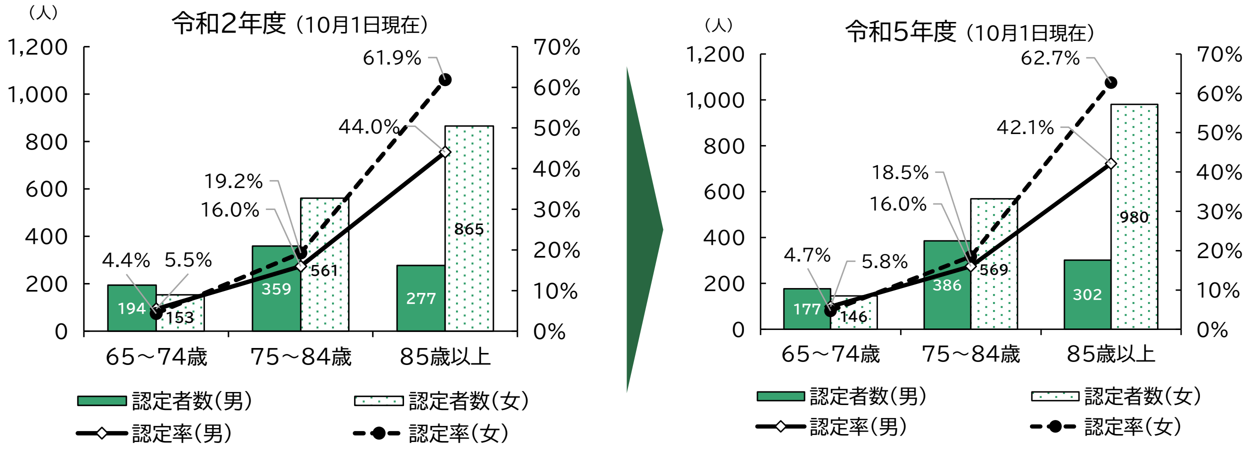
	男性	女性
0～14歳	2,894	2,636
15～64歳	21,601	19,113
65～74歳	3,082	3,107
75歳以上	3,161	4,711
単身高齢者	2,276	3,405

見守りキーホルダー登録者数:3,915 人

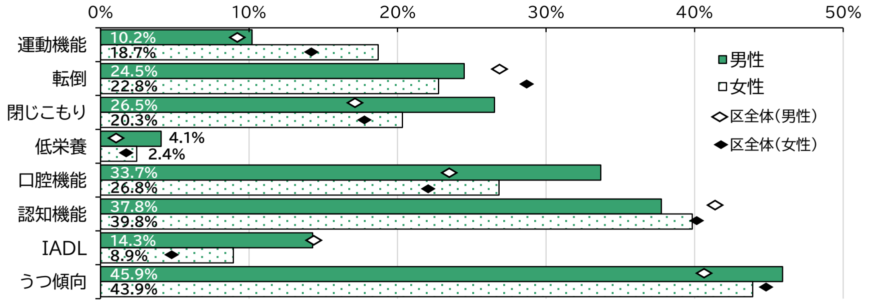
【高齢者人口の将来推計】



【要介護認定率の推移】

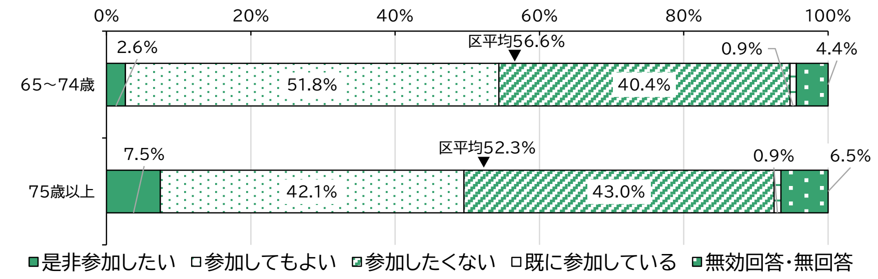


【ニーズ調査におけるリスク傾向】 (令和4年度大田区高齢者等実態調査の結果より)



男女とも、多くの指標で区全体との差が±5ポイント以内に収まっており、区の平均的な状況に近いことがうかがえます。
他方、女性では「運動機能」、男性では「閉じこもり」、「口腔機能」等について、区全体より割合が高い傾向が見られます。

【地域づくりへの参加意向】 (令和4年度大田区高齢者等実態調査の結果より)



※区平均は「是非参加したい」「参加してもよい」の合計

前期・後期高齢者ともに、約5割が地域づくりへの参加意向があると回答しており、おおむね区全体と同様の傾向です。
なお、後期高齢者は、「是非参加したい」が 7.5%と、前期高齢者に比べ回答割合が高くなっています。

大森西地域における高齢者の健康づくりの状況

【「大田区シニアの健康長寿に向けた実態調査2022」の結果より】

	男性（区平均）	女性（区平均）
フレイル該当率	42.3%（40.1%）	33.8%（29.7%）
１週間当たりの歩行時間150分以上	52.0%（43.1%）	38.9%（37.3%）
筋力運動の実践者	20.2%（22.4%）	23.1%（28.3%）
体操・ストレッチの実践者	19.2%（20.8%）	29.4%（30.8%）
１kmの連続歩行ができる	43.0%（26.3%）	34.9%（27.4%）

	男性（区平均）	女性（区平均）
食品摂取の多様性得点3点以下	76.3%（65.6%）	54.8%（49.1%）
抑うつの割合	49.0%（40.2%）	50.0%（41.9%）
社会的孤立の該当者	52.9%（51.7%）	30.5%（30.6%）
月に1回以上社会活動に参加している	19.7%（29.1%）	39.4%（39.2%）

【地域の通いの場】

認知症予防・認知症カフェ	２団体
体操	８団体
趣味活動	２団体
茶話会・会食	２団体
その他	０団体

※複数団体ある施設

プラムハイツ大森西	体操4団体、趣味活動1団体、茶話会・会食1団体
こらぼ大森	認知症1団体、体操3団体、趣味活動1団体

大森西地域の課題と取組

【地域の現状と課題】

○地域には集合住宅も多く、少子高齢化と核家族化の進行に伴い単身高齢者世帯や高齢者のみの世帯が増加する中で、老老介護や認知症高齢者の見守り等の地域課題がある。

○人と接する機会が少なく、家に閉じこもりがちになると、運動機能の低下や人とのつながりの希薄化につながるとして、地域から心配の声が寄せられている。

○区民活動支援施設大森（こらぼ大森）、美原文化センター等を中心に自治会・町会、民生委員等が連携してフレイル予防、認知症予防に取り組んでいる。

【課題への取組】

○自治会・町会、民生委員、地域包括支援センターが協力して、高齢者見守り声かけ訓練を行っているが、今後も訓練を継続して安心して住み続けられるまちづくりを進めていく。

○地域の見守り・つながりの重要なツールである見守りキーホルダーを自治会・町会、民生委員、シニアクラブを中心に、大森西特別出張所・地域包括支援センターと連携して普及啓発に努めてきた。今後もさらなる普及啓発を進めるべく連携を強化していく。

○フレイル予防・認知症予防・人と人とのつながりを目的として、自治会・町会、民生委員をはじめとする「地域の力」を生かし、高齢者の集いの場、通いの場づくりを地域包括支援センターと連携し強化して進めていく。

入新井

地域データ

【地域の人口等】

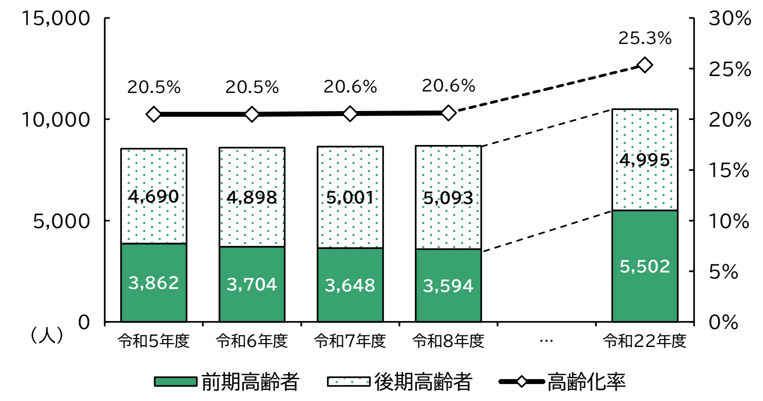
管轄人口：41，713 人
高齢者数：8，552 人（20.5％）
（うち単身高齢者数：3，224 人）

単位：人

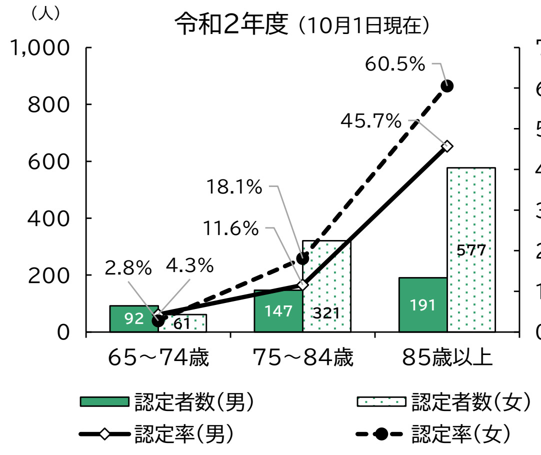
	男性	女性
0～14歳	2，177	2，099
15～64歳	15，151	13，734
65～74歳	1，905	1，957
75歳以上	1，877	2，813
単身高齢者	1，155	2，069

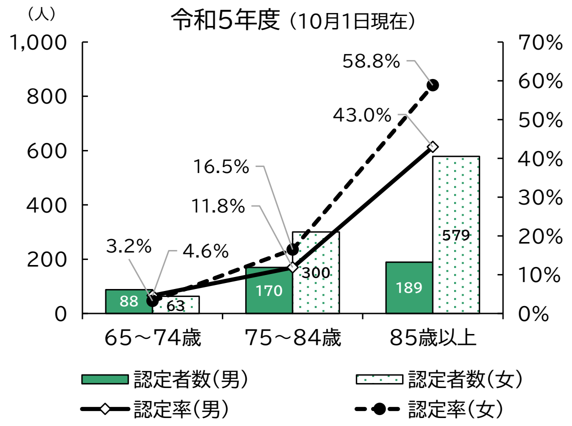
見守りキーホルダー登録者数：2,030 人

【高齢者人口の将来推計】

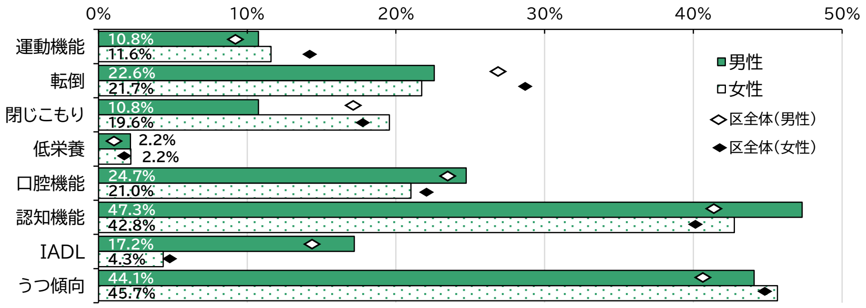


【要介護認定率の推移】



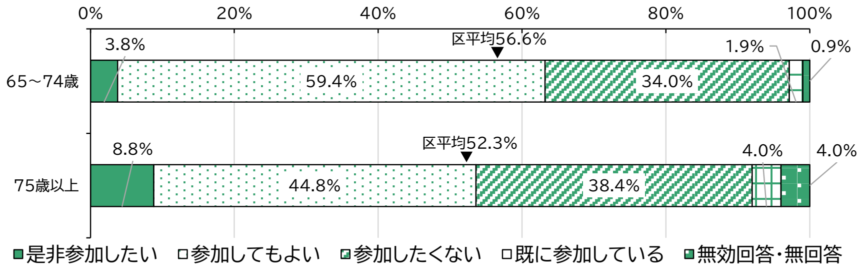


【ニーズ調査におけるリスク傾向】（令和4年度大田区高齢者等実態調査の結果より）



各指標について、おおむね区全体の傾向と同様となっています。
なお、「転倒」のリスク判定について、男女とも区全体よりも割合が低い傾向にあります。他方、「認知機能」、「うつ傾向」は区全体よりも割合が高く、特に男性に顕著な差が見られます。

【地域づくりへの参加意向】（令和4年度大田区高齢者等実態調査の結果より）



※区平均は「是非参加したい」「参加してもよい」の合計

前期高齢者は約6割、後期高齢者は約５割が、地域づくりへの参加意向があると回答しており、区平均を上回っています。
なお、後期高齢者の 8.8％が「是非参加したい」と回答しています。

入新井地域における高齢者の健康づくりの状況

【「大田区シニアの健康長寿に向けた実態調査2022」の結果より】

	男性（区平均）	女性（区平均）
フレイル該当率	29.6%（40.1%）	31.0%（29.7%）
１週間当たりの歩行時間150分以上	36.7%（43.1%）	37.4%（37.3%）
筋力運動の実践者	29.5%（22.4%）	25.2%（28.3%）
体操・ストレッチの実践者	28.6%（20.8%）	35.3%（30.8%）
１kmの連続歩行ができる	22.0%（26.3%）	28.9%（27.4%）

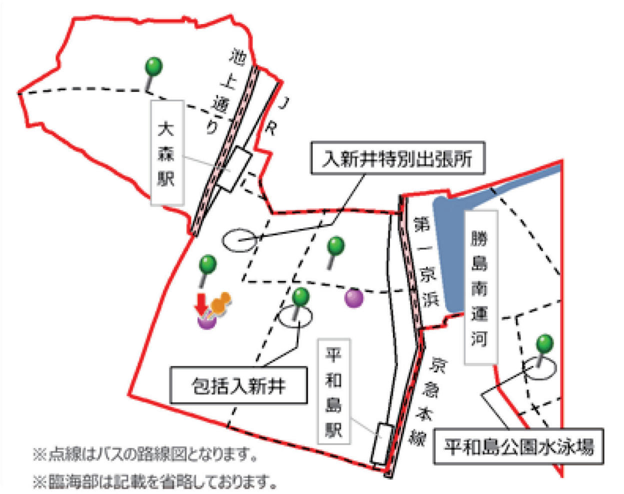
	男性（区平均）	女性（区平均）
食品摂取の多様性得点3点以下	63.3%（65.6%）	46.0%（49.1%）
抑うつの割合	35.7%（40.2%）	42.2%（41.9%）
社会的孤立の該当者	52.2%（51.7%）	30.2%（30.6%）
月に1回以上社会活動に参加している	31.4%（29.1%）	44.7%（39.2%）

【地域の通いの場】

認知症予防・認知症カフェ	０団体
体操	６団体
趣味活動	２団体
茶話会・会食	１団体
その他	２団体

※複数団体ある施設

入新井老人いこいの家	体操2団体
男女平等推進センター エセナおおた	趣味活動2団体、 茶話会・会食1団体、その他1団体



入新井地域の課題と取組

【地域の現状と課題】

○JR線・京急本線の駅が近く、大型商業施設もあり利便性が高い。大型マンション・集合住宅・戸建てが混在しており、新しい住民の流入も多い地域である。一方で世代間の生活スタイルの違いにより、住民同士のつながりが希薄化している傾向があり、高齢者が孤立しないよう見守りが必要である。

○地域包括支援センターが高齢者の総合相談窓口であることをこれまで啓発してきたが、「相談したいと思ったときに相談場所がわからない」、「地域包括支援センターは具合が悪くなったときに行く場所という印象」との声がまだあるため、認知度をさらに向上させる必要がある。

○入新井地域は区境にあり、JRの線路や幹線道路等を横断しなければならないために、社会資源へのアクセスが難しい箇所がある。これらを鑑みると、地域の方が徒歩圏内で行ける集いの場が不足している。

【課題への取組】

○住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、自治会・町会、民生委員、おおた高齢者見守りネットワーク（みま～も）、企業等の団体と協働し、見守り事業を行っている。今後も地域団体との関係強化を図り事業を継続していく。

○徒歩でアクセスできる小さな集いとして、「出張包括」と称し、関係者と連携し見守りキーホルダー登録会、オレンジカフェ等を自治会・町会、民生委員、企業と連携し平成 30 年より実施している。引き続き実施することで地域包括支援センターの認知度向上をめざす。

○地域で開催しているサロン事業のほか、地域包括支援センターが企画する多世代が交流できる講座やイベント等を実施しているが、徒歩圏内の集いの場を今後も増やしていく。

馬込

地域データ

【地域の人口等】

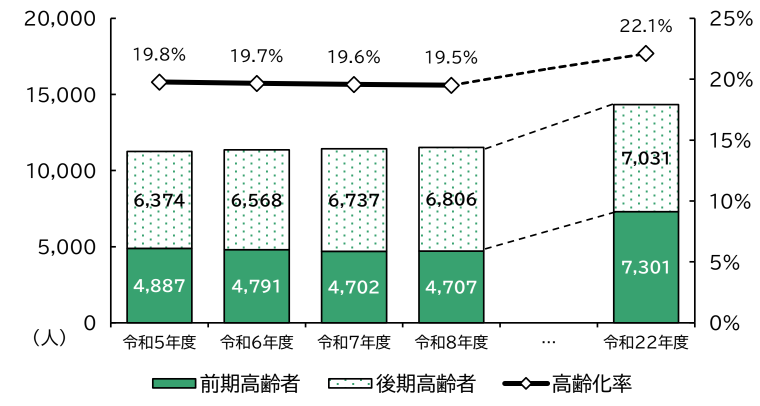
管轄人口:56, 949 人
高齢者数:11, 261 人(19.8%)
（うち単身高齢者数:3, 963 人）

単位:人

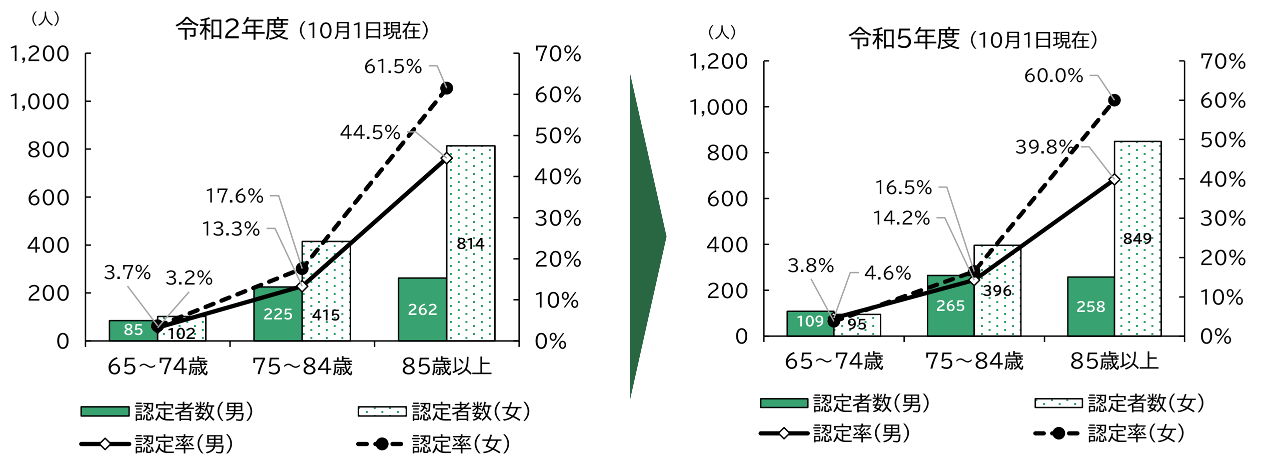
	男性	女性
0～14歳	3, 339	3, 234
15～64歳	19, 832	19, 283
65～74歳	2, 357	2, 530
75歳以上	2, 517	3, 857
単身高齢者	1, 345	2, 618

見守りキーホルダー登録者数:2,250 人

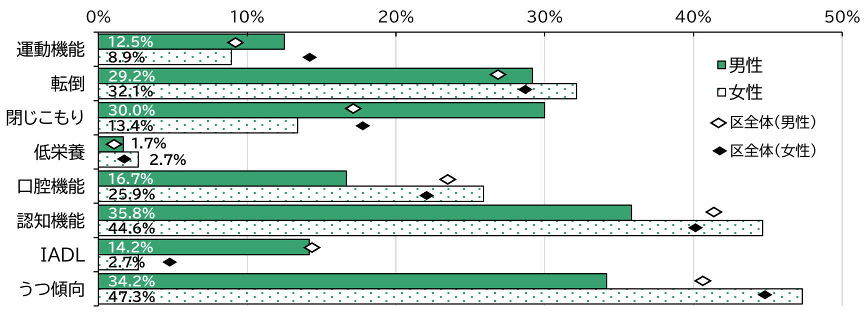
【高齢者人口の将来推計】



【要介護認定率の推移】

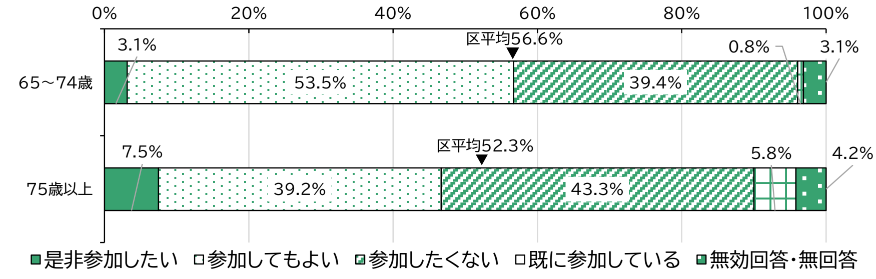


【ニーズ調査におけるリスク傾向】（令和4年度大田区高齢者等実態調査の結果より）



「運動機能」、「閉じこもり」については、区全体の傾向と異なり、女性の方がリスク判定の割合が低く、区全体を下回っています。
「口腔機能」、「認知機能」、「うつ傾向」についても、区全体の傾向と異なり、男性の方がリスク判定の割合が低く、区全体を下回っています。

【地域づくりへの参加意向】（令和4年度大田区高齢者等実態調査の結果より）



※区平均は「是非参加したい」「参加してもよい」の合計

前期高齢者は、約6割が地域づくりへの参加意向があると回答しており、区全体とおおむね同様の傾向です。
後期高齢者は、前期高齢者に比べ「是非参加したい」や「既に参加している」の割合が高くなっています。

馬込地域における高齢者の健康づくりの状況

【「大田区シニアの健康長寿に向けた実態調査2022」の結果より】

	男性（区平均）	女性（区平均）
フレイル該当率	43.0%（40.1%）	32.5%（29.7%）
１週間当たりの歩行時間150分以上	45.6%（43.1%）	32.5%（37.3%）
筋力運動の実践者	20.0%（22.4%）	31.8%（28.3%）
体操・ストレッチの実践者	12.6%（20.8%）	34.8%（30.8%）
１kmの連続歩行ができる	27.9%（26.3%）	23.7%（27.4%）

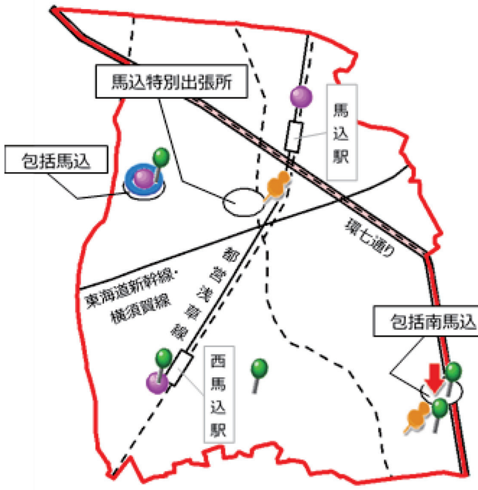
	男性（区平均）	女性（区平均）
食品摂取の多様性得点3点以下	63.9%（65.6%）	44.4%（49.1%）
抑うつの割合	44.3%（40.2%）	43.3%（41.9%）
社会的孤立の該当者	57.8%（51.7%）	30.2%（30.6%）
月に1回以上社会活動に参加している	25.0%（29.1%）	50.0%（39.2%）

【地域の通いの場】

認知症予防・認知症カフェ	１団体
体操	７団体
趣味活動	３団体
茶話会・会食	１団体
その他	３団体

※複数団体ある施設

馬込文化センター	趣味活動2団体
シニアステーション馬込	認知症関連1団体、体操1団体、その他1団体
シニアステーション南馬込	体操2団体、茶話会・会食1団体
ライフコミュニティ西馬込	体操2団体、その他1団体



※点線はバスの路線図となります。

馬込地域の課題と取組

【地域の現状と課題】

○馬込地域には地域包括支援センターが2か所あり、各センターが介護予防事業や高齢者の見守り活動などを地域活動の場で周知を行ってきたが、高齢者が気軽に相談できる相談窓口としてさらに認知度を高める必要がある。

○馬込地域は九十九谷と呼ばれるほど坂が多く、高齢者が住み慣れた地域で安心して住み続けるために、運動機能向上と転倒リスク軽減のフレイル予防を実践していくことが重要となる。

○高齢者の通いの場が少ない地域であるが、引き続き地域の方が参加しやすい通いの場の設置や内容の充実を図ること、見守り体制の強化が必要である。

【課題への取組】

○地域の中で、地域包括支援センターの事業や活動の周知をこれからも積極的に行っていくとともに、「地域ケア会議」開催により医療、介護の連携を高め、地域の見守り体制の強化を図っていく。

○各シニアステーションで実施する「フレイル予防」につながるプログラムをさらに充実させていく。また、男性に特化したプログラムも引き続き実施し、参加の少ない男性のフレイル予防活動を推進していく。

○「馬込学び舎」や「体力測定会」など、地域へ出向く出張型イベントを開催し、予防事業、福祉サービス、生活情報を「学ぶ・体験する・実施する」通いの場をつくっていく。

池上

地域データ

【地域の人口等】

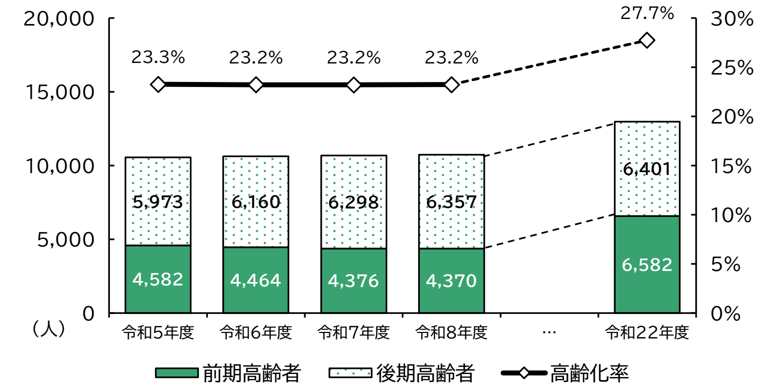
管轄人口:45,391 人
高齢者数:10,555 人(23.3%)
(うち単身高齢者数:3,996 人)

単位:人

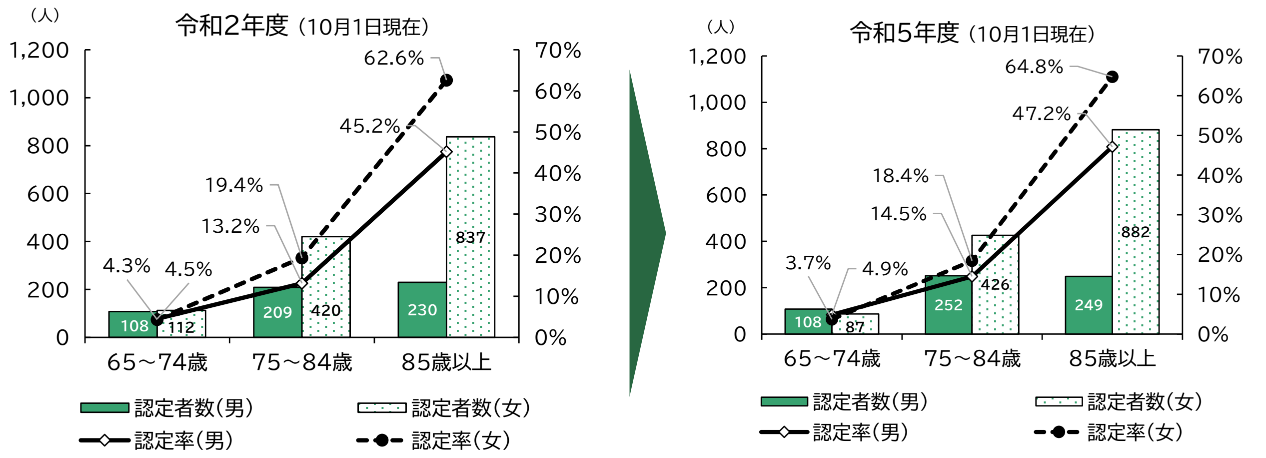
	男性	女性
0~14歳	2,589	2,352
15~64歳	15,199	14,696
65~74歳	2,225	2,357
75歳以上	2,277	3,696
単身高齢者	1,331	2,665

見守りキーホルダー登録者数:2,006 人

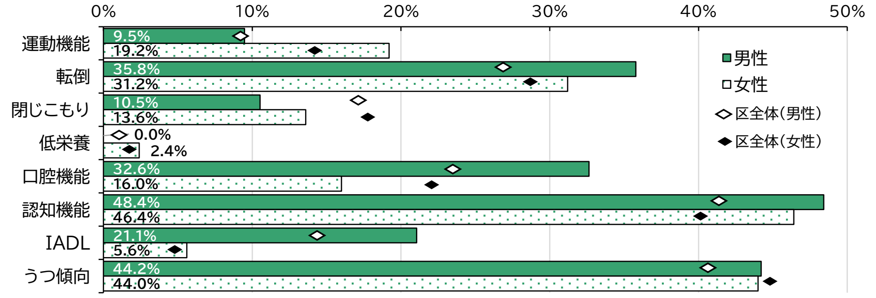
【高齢者人口の将来推計】



【要介護認定率の推移】



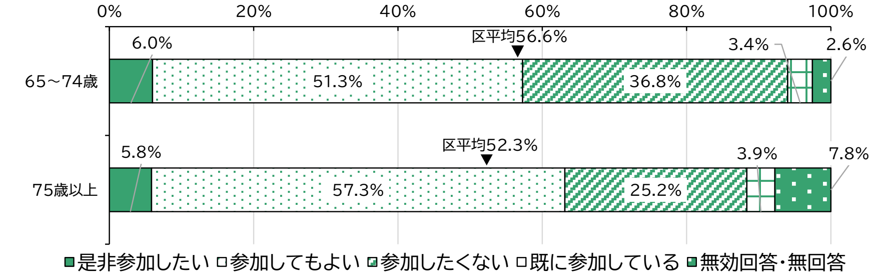
【ニーズ調査におけるリスク傾向】(令和4年度大田区高齢者等実態調査の結果より)



「閉じこもり」について、男女ともに区全体よりもリスク判定割合が低いという特徴が見られます。

他方、「転倒」、「認知機能」、「IADL」は男女ともに区全体よりも割合が高い傾向にあります。

【地域づくりへの参加意向】(令和4年度大田区高齢者等実態調査の結果より)



※区平均は「是非参加したい」「参加してもよい」の合計

前期高齢者は約6割が地域づくりへの参加意向があると回答しており、区全体と同様の傾向です。

後期高齢者も約6割が地域づくりへの参加意向があると回答しており、区平均を 10.8 ポイント上回っています。

池上地域における高齢者の健康づくりの状況

【「大田区シニアの健康長寿に向けた実態調査2022」の結果より】

	男性（区平均）	女性（区平均）
フレイル該当率	38.4%（40.1%）	29.2%（29.7%）
１週間当たりの歩行時間150分以上	35.4%（43.1%）	38.9%（37.3%）
筋力運動の実践者	18.5%（22.4%）	21.7%（28.3%）
体操・ストレッチの実践者	22.2%（20.8%）	22.5%（30.8%）
1kmの連続歩行ができる	26.3%（26.3%）	28.3%（27.4%）

	男性（区平均）	女性（区平均）
食品摂取の多様性得点3点以下	69.9%（65.6%）	47.2%（49.1%）
抑うつの割合	40.5%（40.2%）	42.4%（41.9%）
社会的孤立の該当者	47.3%（51.7%）	33.9%（30.6%）
月に1回以上社会活動に参加している	35.6%（29.1%）	37.2%（39.2%）

【地域の通いの場】

認知症予防・認知症カフェ	２団体
体操	５団体
趣味活動	17 団体
茶話会・会食	３団体
その他	１団体

※複数団体ある施設

池上文化センター	体操1団体、趣味活動9団体
池上特別出張所	認知症関連1団体、体操1団体、茶話会・会食2団体

池上地域の課題と取組

【地域の現状と課題】

○池上地域は、自治会・町会が参加する地域の様々な団体で構成された「池上地区まちおこしの会」や、多種多様な自主グループの地域活動が活発に行われている。

○フレイル予防に対する意識は高いが、運動機能と認知機能の低下の傾向が見られるため、健康維持増進や介護予防事業の参加率の向上、特に男性の参加の促しが求められている。

○日常生活圏域レベル地域ケア会議で議題として挙がっている対面での見守り活動について、自治会・町会、民生委員等と連携し、強化していくことが求められる。

【課題への取組】

○地域のボランティアの方々などと協働し、男性メインの通いの場の立ち上げを行い、男性が地域の中に出やすい環境づくりをめざす。

○地域との関わりが少ない高齢者を対象に、工夫を凝らして発行している地域情報誌などを積極的に配布し、健康の維持管理にも寄与できるよう、周知活動を強化している。

○対面での見守り活動について自治会・町会、民生委員と役割分担を行いつつ、協働で推進していく。

新井宿

地域データ

【地域の人口等】

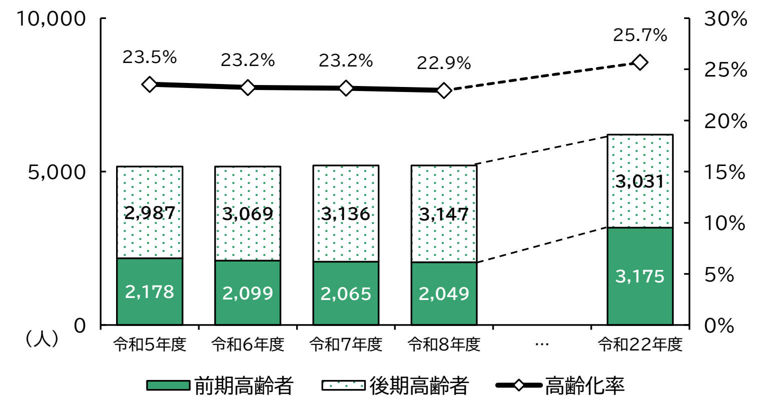
管轄人口:21,955 人
高齢者数:5,165 人(23.5%)
(うち単身高齢者数:1,824 人)

単位:人

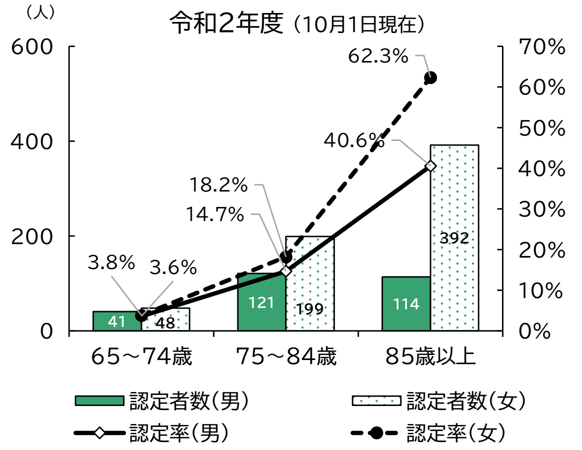
	男性	女性
0～14歳	1,297	1,144
15～64歳	7,344	7,005
65～74歳	1,062	1,116
75歳以上	1,193	1,794
単身高齢者	632	1,192

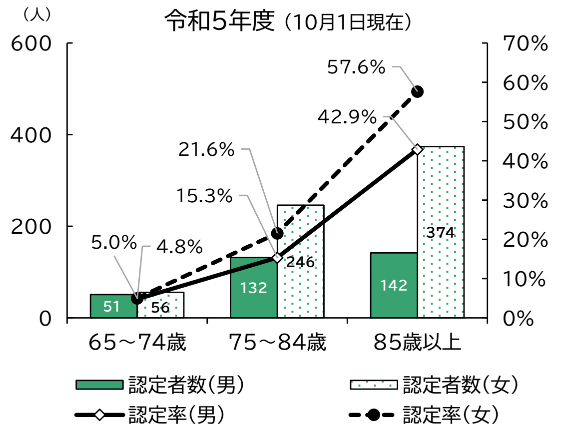
見守りキーホルダー登録者数:1,136 人

【高齢者人口の将来推計】

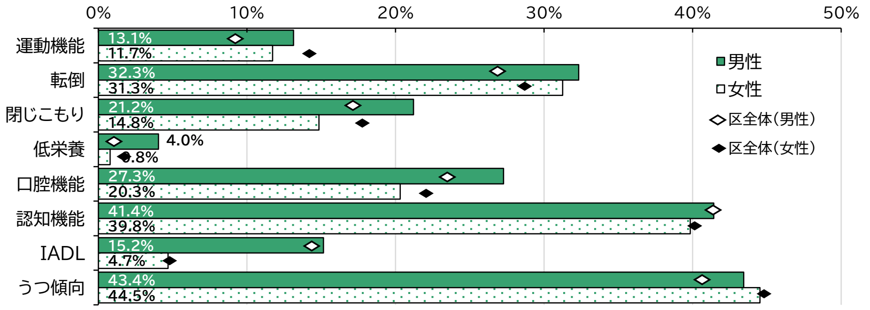


【要介護認定率の推移】



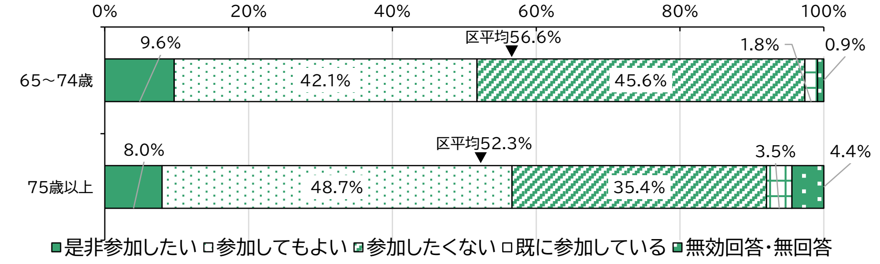


【ニーズ調査におけるリスク傾向】(令和4年度大田区高齢者等実態調査の結果より)



各指標について、おおむね区全体の傾向と同様となっています。
なお、男性は全指標において、区全体よりもリスク判定割合が高くなっています。他方、女性は「転倒」を除いた指標について、区全体よりも割合が低くなっています。

【地域づくりへの参加意向】(令和4年度大田区高齢者等実態調査の結果より)



※区平均は「是非参加したい」「参加してもよい」の合計

前期高齢者は約５割、後期高齢者は約６割が地域づくりへの参加意向があると回答しており、後期高齢者については区平均を上回っています。
前期・後期高齢者ともに、「是非参加したい」という強い意向を示している回答が約１割となっています。

新井宿地域における高齢者の健康づくりの状況

【「大田区シニアの健康長寿に向けた実態調査2022」の結果より】

	男性（区平均）	女性（区平均）
フレイル該当率	41.1%（40.1%）	28.6%（29.7%）
１週間当たりの歩行時間150分以上	46.8%（43.1%）	29.8%（37.3%）
筋力運動の実践者	24.5%（22.4%）	22.4%（28.3%）
体操・ストレッチの実践者	17.9%（20.8%）	31.2%（30.8%）
１kmの連続歩行ができる	27.4%（26.3%）	24.8%（27.4%）

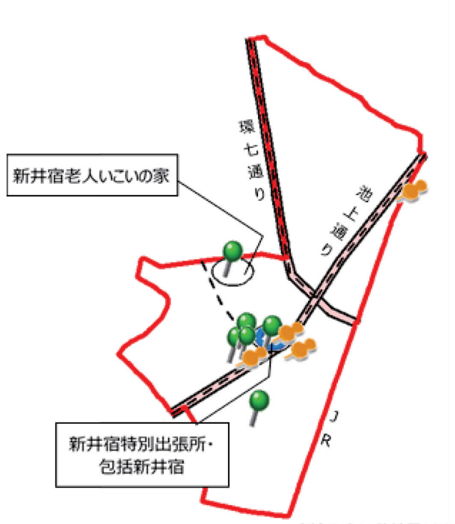
	男性（区平均）	女性（区平均）
食品摂取の多様性得点3点以下	66.7%（65.6%）	54.3%（49.1%）
抑うつの割合	33.0%（40.2%）	40.0%（41.9%）
社会的孤立の該当者	52.8%（51.7%）	26.2%（30.6%）
月に1回以上社会活動に参加している	25.7%（29.1%）	45.2%（39.2%）

【地域の通いの場】

認知症予防・認知症カフェ	2団体
体操	8団体
趣味活動	11団体
茶話会・会食	0団体
その他	0団体

※複数団体ある施設

新井宿特別出張所	認知症関連2団体、体操3団体、趣味活動5団体
大田文化の森	趣味活動3団体
障がい者総合サポートセンター　さぽーとぴあ	体操1団体、趣味活動2団体



※点線はバスの路線図となります。

新井宿地域の課題と取組

【地域の現状と課題】

○高齢化率が区内では4番目に高い。また、高齢者の約3人に1人が単身高齢者世帯である。しかし、介護・介助が必要ないと答えた割合は、区内で6番目に多く、趣味や生きがいをもっている方の割合も区平均より多いことから、元気な単身高齢者が多い地域と言える。

○バス通りから離れた一部の地域は、公共交通機関へアクセスするのが困難である。また、急坂上の地域にはバス等の公共交通機関が通っていないため、身体機能の低下が外出や買物困難につながりやすい。

○地域内に銭湯がないため、自宅にてひとりで入浴をすることが困難な方や不安が強い方は、デイサービス等の介護サービスに頼らざるを得なくなる。

○上記のことから、在宅生活を継続するために、心身機能の低下を予防することが重要となるが、困った時に気軽に相談できる場所として地域包括支援センターを広く周知していく必要がある。

【課題への取組】

○『通いの場』をはじめとした社会資源が多く集まっている地域であるため、積極的に活用されるよう、その必要性とあわせて広く地域へ周知し、健康寿命の延伸に寄与する。

○元気なうちから地域の相談窓口等を知っていただくことが、住み慣れた地域で安心して生活を継続することにつながるため、見守りキーホルダー登録会など、地域での活動を積極的に行い、地域包括支援センターを広く周知していく。

嶺町

地域データ

【地域の人口等】

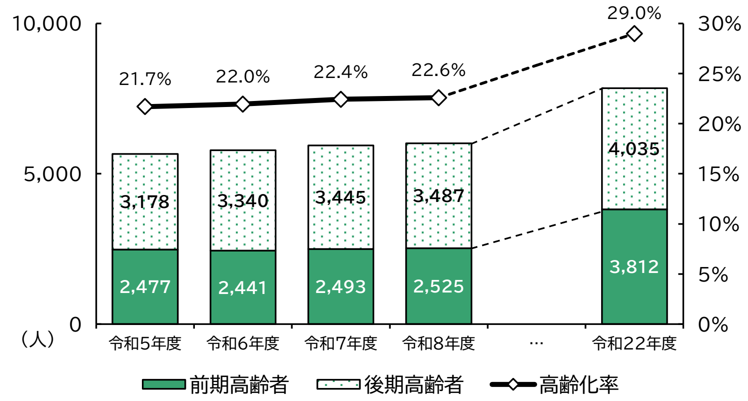
管轄人口:26,069 人
高齢者数:5,655 人(21.7%)
(うち単身高齢者数:1,962 人)

単位:人

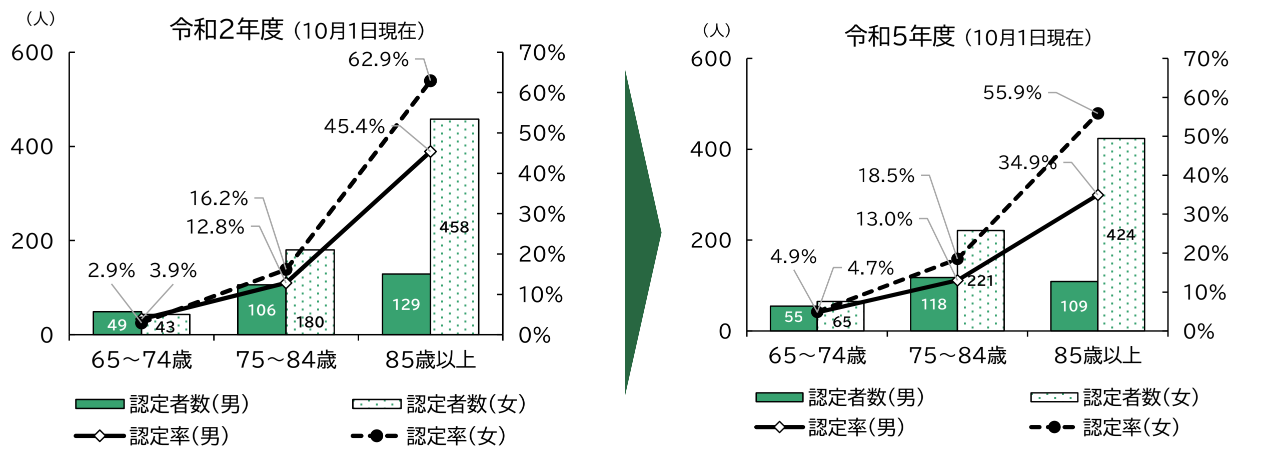
	男性	女性
0～14歳	1,422	1,430
15～64歳	8,423	9,139
65～74歳	1,159	1,318
75歳以上	1,219	1,959
単身高齢者	576	1,386

見守りキーホルダー登録者数:843 人

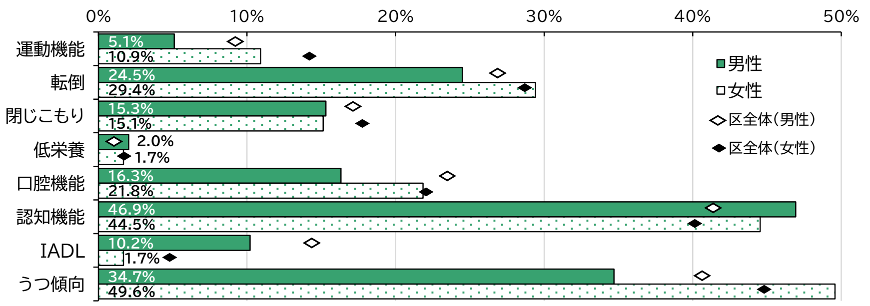
【高齢者人口の将来推計】



【要介護認定率の推移】

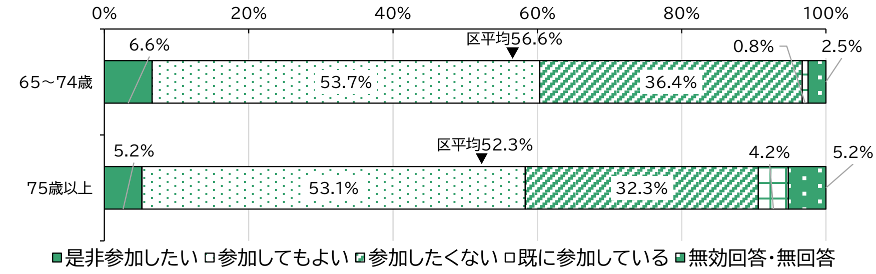


【ニーズ調査におけるリスク傾向】(令和4年度大田区高齢者等実態調査の結果より)



男性については「低栄養」、「認知機能」以外の指標で区全体よりもリスク判定の割合が低くなっています。
また、女性については「認知機能」や「うつ傾向」においてリスク判定の割合が高く、区全体を上回っています。

【地域づくりへの参加意向】(令和4年度大田区高齢者等実態調査の結果より)



※区平均は「是非参加したい」「参加してもよい」の合計

前期・後期高齢者ともに約6割が地域づくりへの参加意向があると回答しており、区平均を上回っています。
なお、「既に参加している」の割合は後期高齢者の方が高く、4.2%となっています。

嶺町地域における高齢者の健康づくりの状況

【「大田区シニアの健康長寿に向けた実態調査2022」の結果より】

	男性（区平均）	女性（区平均）
フレイル該当率	36.4%（40.1%）	24.9%（29.7%）
1週間当たりの歩行時間150分以上	39.6%（43.1%）	33.9%（37.3%）
筋力運動の実践者	28.1%（22.4%）	30.9%（28.3%）
体操・ストレッチの実践者	21.7%（20.8%）	32.8%（30.8%）
1kmの連続歩行ができる	21.6%（26.3%）	22.2%（27.4%）

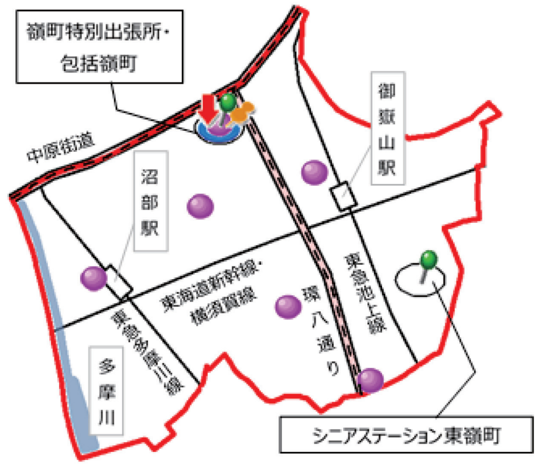
	男性（区平均）	女性（区平均）
食品摂取の多様性得点3点以下	57.9%（65.6%）	42.4%（49.1%）
抑うつの割合	37.1%（40.2%）	39.2%（41.9%）
社会的孤立の該当者	47.2%（51.7%）	31.1%（30.6%）
月に1回以上社会活動に参加している	30.0%（29.1%）	41.1%（39.2%）

【地域の通いの場】

認知症予防・認知症カフェ	1 団体
体操	12 団体
趣味活動	1 団体
茶話会・会食	2 団体
その他	7 団体

※複数団体ある施設

シニアステーション東嶺町	体操11団体
嶺町特別出張所（嶺町文化センター）	認知症関連 1 団体、体操1団体、趣味活動1団体、茶話会・会食2団体、その他2団体



※点線はバスの路線図となります。

嶺町地域の課題と取組

【地域の現状と課題】

○筋力運動や体操・ストレッチのほか、食品摂取の多様性や社会参加など区の平均を上回っており、フレイル該当率も区平均より良い結果となっている。元気シニア・プロジェクトモデル地区として一体となって取り組んだ地域であり、プロジェクト終了後も取組が継続されている。

○5つの自治会・町会がそれぞれ密に連携し、協力し合う土壌がある。嶺町地区自治会連合会を中心に様々な団体が地域で活動を行っており、地域力の高い地域と言える。

○閉じこもりに関するリスク傾向は区全体より低い数値となっている。区平均を上回る約6割の方が地域づくりへの参加意向があると回答しており、高齢者の意識が高いと言える。

○日常生活での心配ごとについては8割近くの方が何かしらあると回答。その内容は家族に関することや健康・住宅・生きがいなど多様化している。

【課題への取組】

○各自治会・町会、民生委員、関係機関と連携を取り、様々な世代に対してフレイル予防（運動・栄養・社会参加）の大切さを定着させていく。個別相談の他にシニアステーション東嶺町でのイベントや地域で行われている活動にて、フレイル予防を周知・実施していく。

○嶺町特別出張所に併設された地域包括支援センターである強みを生かし、各自治会・町会・民生委員・関係機関と連携をさらに密にしていき、各種会議への参加、イベント等への協力を継続していく。

○相談背景が複雑化しているため、相談機関同士の連携をより密にするとともに、的確な相談対応が取れるよう、合同相談会を検討・実施する。

田園調布

地域データ

【地域の人口等】

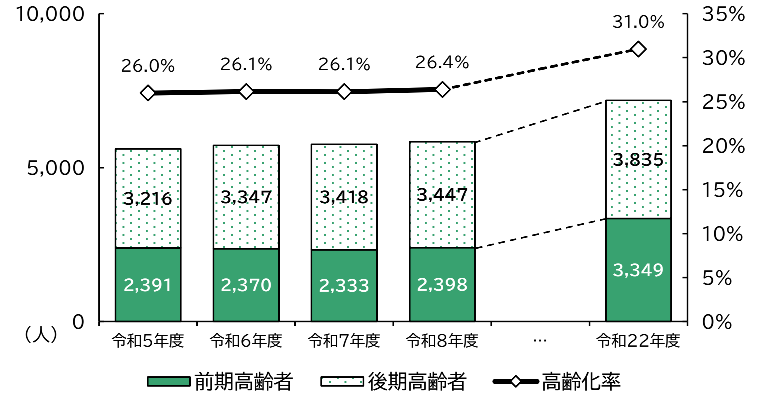
管轄人口：21，588 人
高齢者数：5，607 人（26.0%）
（うち単身高齢者数：1，691 人）

単位：人

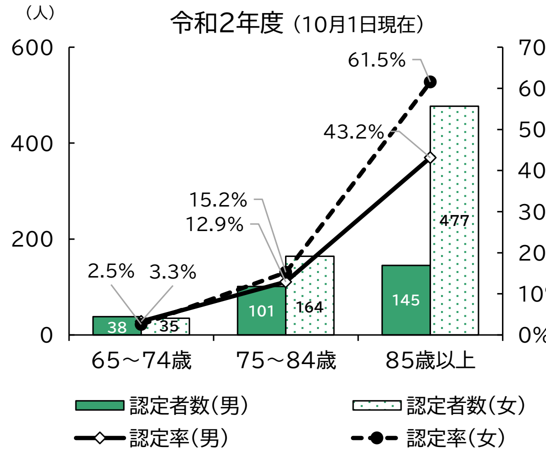
	男性	女性
0～14歳	1，268	1，171
15～64歳	6，362	7，180
65～74歳	1，131	1，260
75歳以上	1，202	2，014
単身高齢者	406	1，285

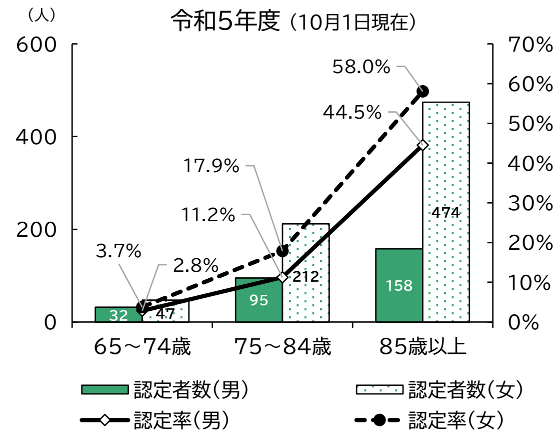
見守りキーホルダー登録者数：1,002 人

【高齢者人口の将来推計】

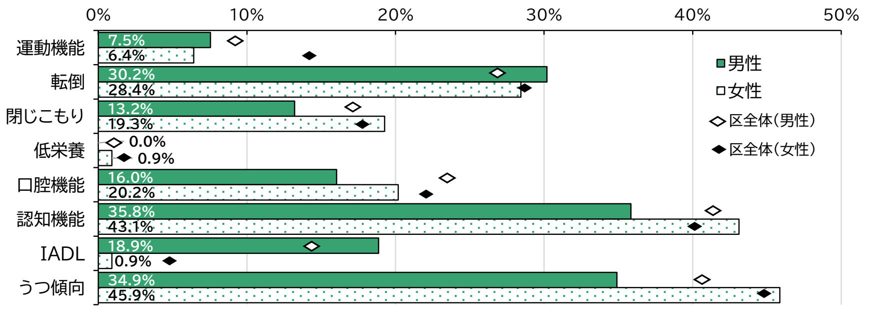


【要介護認定率の推移】



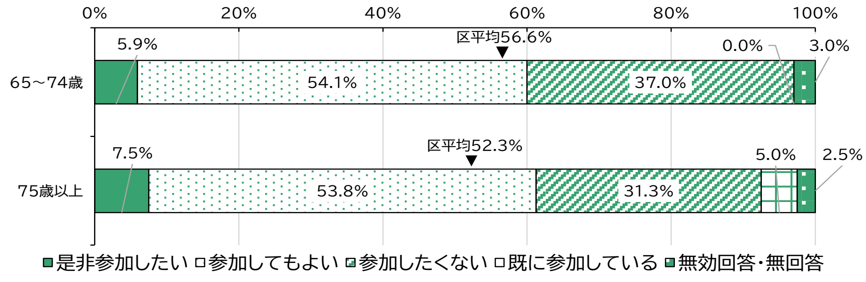


【ニーズ調査におけるリスク傾向】（令和4年度大田区高齢者等実態調査の結果より）



「運動機能」や「口腔機能」について、男女ともに区全体よりもリスク判定の割合が低く、特に女性の「運動機能」では差が大きくなっています。
「転倒」、「IADL」以外の指標について、男性は区全体よりも割合が低くなっています。

【地域づくりへの参加意向】（令和4年度大田区高齢者等実態調査の結果より）



※区平均は「是非参加したい」「参加してもよい」の合計

前期・後期高齢者ともに約 6 割が地域づくりへの参加意向があると回答しており、区平均を上回っています。
なお、「既に参加している」の割合は後期高齢者の方が高く、5.0%となっています。

田園調布地域における高齢者の健康づくりの状況

【「大田区シニアの健康長寿に向けた実態調査2022」の結果より】

	男性 (区平均)	女性 (区平均)
フレイル該当率	29.9%(40.1%)	26.1%(29.7%)
1週間当たりの歩行時間150分以上	40.0%(43.1%)	38.6%(37.3%)
筋力運動の実践者	27.4%(22.4%)	37.1%(28.3%)
体操・ストレッチの実践者	27.2%(20.8%)	40.5%(30.8%)
1kmの連続歩行ができる	20.3%(26.3%)	20.5%(27.4%)

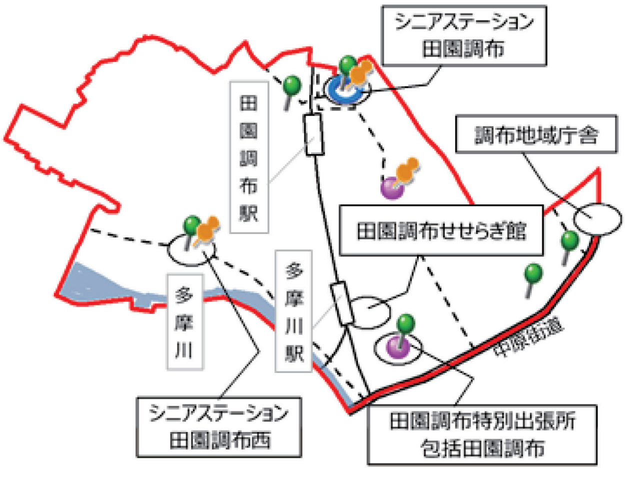
	男性 (区平均)	女性 (区平均)
食品摂取の多様性得点3点以下	54.7%(65.6%)	39.3%(49.1%)
抑うつの割合	35.6%(40.2%)	41.0%(41.9%)
社会的孤立の該当者	39.1%(51.7%)	24.2%(30.6%)
月に1回以上社会活動に参加している	39.4%(29.1%)	47.6%(39.2%)

【地域の通いの場】

認知症予防・認知症カフェ	2団体
体操	10団体
趣味活動	10団体
茶話会・会食	0団体
その他	2団体

※複数団体ある施設

田園調布特別出張所	体操1団体、その他1団体
シニアステーション田園調布	認知症関連2団体、 体操2団体、趣味活動3団体
シニアステーション田園調布西	体操4団体、趣味活動6団体



※点線はバスの路線図となります。

田園調布地域の課題と取組

【地域の現状と課題】

○地区には、緑豊かな3か所の大きな公園と、令和2年度に開設した「せせらぎ館」など、閑静な住宅地の中で、魅力ある自然と公共施設などが調和している。一方で、急な坂道の移動が避けられない地域や、公共交通機関から離れた住宅地などは、高齢期になってからの移動や買い物など、生活上の課題が発生しやすい地域もある。

○高齢化率は25%を上回り区内でトップだが、実態調査から筋力運動の実践者や食品摂取の多様性得点、社会活動等への参加率が高く、フレイル該当率が低いことが確認された。

○地区として防災対策意識が高く、防災訓練など精力的に行われているが、特に水害想定エリアにおいては、避難行動要支援者への具体的な対策の検討が求められている。

【課題への取組】

○令和6年度には、せせらぎ公園に体育施設が整備される予定であり、地域の方々がよりフレイル予防やスポーツを楽しむ機会が増加し、地域の活性化にもつながることが期待されている。

○平成28年度からは、フレイル予防の活動として自治会・町会、民生児童委員、地域住民、地域活動団体、医療機関、行政などが一体となり「元気シニア・プロジェクト田園調布」を始動。現在は、フレイル予防だけではなく、多世代へ向けた取組などを行い、活発に活動が続いている。

○毎年、自治会・町会独自で「避難行動要支援者名簿」を活用し、警察・消防、民生児童委員、地域包括支援センターと連携し、状況把握や見守りなどを目的とした訪問活動を実施している。

鵜の木

地域データ

【地域の人口等】

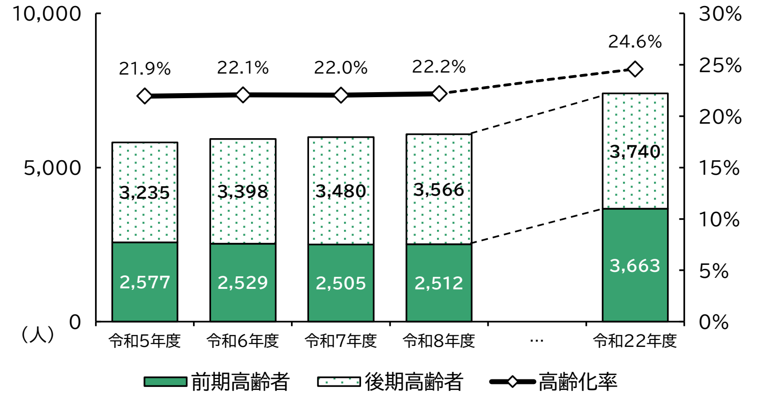
管轄人口:26,480 人
高齢者数:5,812 人(21.9%)
（うち単身高齢者数:2,256 人）

単位:人

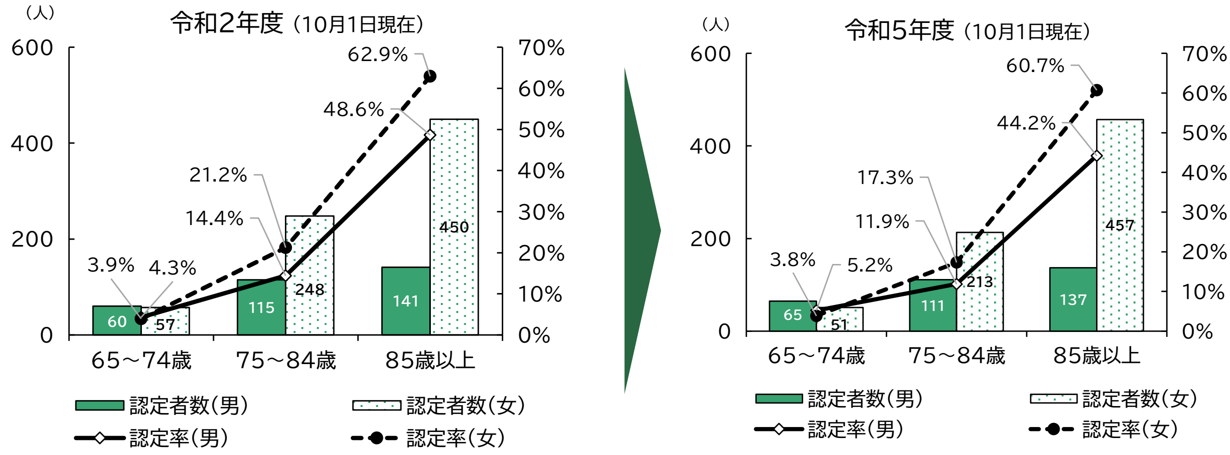
	男性	女性
0～14歳	1,528	1,506
15～64歳	8,462	9,172
65～74歳	1,247	1,330
75歳以上	1,250	1,985
単身高齢者	785	1,471

見守りキーホルダー登録者数:1,275 人

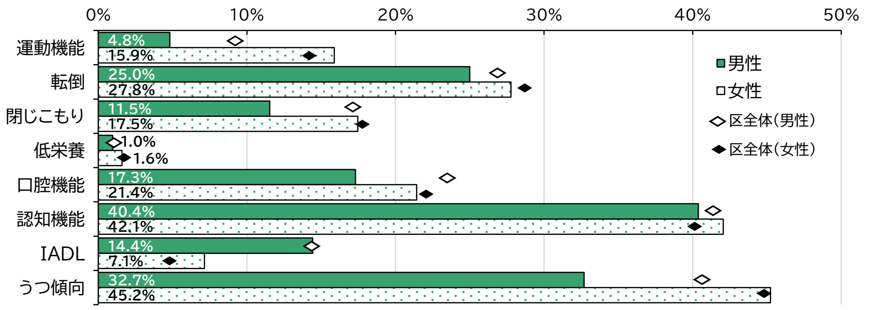
【高齢者人口の将来推計】



【要介護認定率の推移】

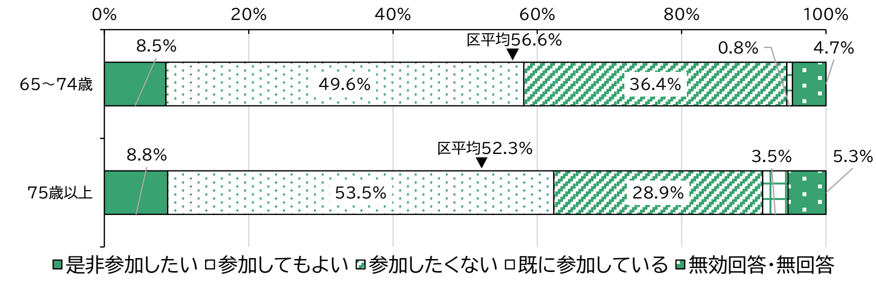


【ニーズ調査におけるリスク傾向】（令和4年度大田区高齢者等実態調査の結果より）



女性は各指標について、区全体とおおむね同様の水準となっています。
男性については「IADL」以外の指標について区全体よりもリスク判定割合が低く、特に「運動機能」、「口腔機能」、「うつ傾向」について、その傾向が顕著となっています。

【地域づくりへの参加意向】（令和4年度大田区高齢者等実態調査の結果より）



※区平均は「是非参加したい」「参加してもよい」の合計

前期・後期高齢者ともに、約6割が地域づくりへの参加意向があると回答しており、区平均を上回っています。
なお、前期高齢者の 8.5%、後期高齢者の 8.8%は「是非参加したい」という強い意向を示しています。

鵜の木地域における高齢者の健康づくりの状況

【「大田区シニアの健康長寿に向けた実態調査2022」の結果より】

	男性（区平均）	女性（区平均）
フレイル該当率	33.8%（40.1%）	31.2%（29.7%）
1週間当たりの歩行時間150分以上	41.2%（43.1%）	39.8%（37.3%）
筋力運動の実践者	24.8%（22.4%）	30.3%（28.3%）
体操・ストレッチの実践者	18.0%（20.8%）	34.5%（30.8%）
1kmの連続歩行ができる	20.6%（26.3%）	27.1%（27.4%）

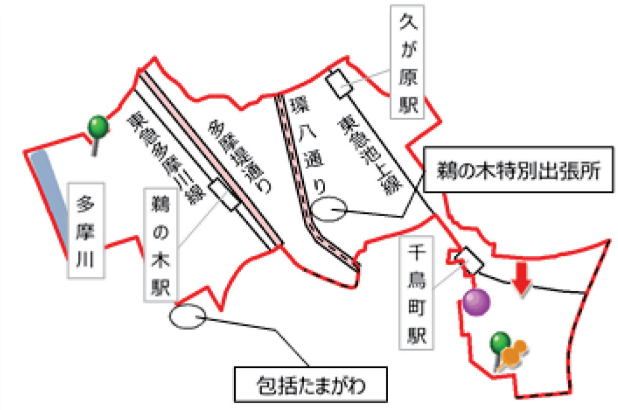
	男性（区平均）	女性（区平均）
食品摂取の多様性得点3点以下	68.5%（65.6%）	42.0%（49.1%）
抑うつの割合	38.0%（40.2%）	48.9%（41.9%）
社会的孤立の該当者	55.9%（51.7%）	29.7%（30.6%）
月に1回以上社会活動に参加している	29.6%（29.1%）	41.5%（39.2%）

【地域の通いの場】

認知症予防・認知症カフェ	0団体
体操	3団体
趣味活動	2団体
茶話会・会食	1団体
その他	1団体

※複数団体ある施設

プラムハイツ千鳥	体操2団体、趣味活動2団体



※点線はバスの路線図となります。

鵜の木地域の課題と取組

【地域の現状と課題】

○鵜の木元気塾や高齢者フェスタを中心とした地域のささえあい活動が根付いている。

○オアシス運動では元気なあいさつで明るいまちづくりを推進している。

○多摩川を活用した「水辺の楽校」開催など、イベントだけでなく散歩道として河川敷が活動の場となっている。

○大規模なマンションもあり、若い世代が増えている。また、高齢者だけの世帯も増えている。

○新型コロナウイルス感染症の影響により、地域の活動やイベント等が一部中止、規模縮小を余儀なくされたことを受け、フレイル予防の取組や健康づくりに関して、一人ひとりが、また地域ぐるみで取り組むことが求められる。

【課題への取組】

○町会が中心となり、高齢者が参加できるイベントを多く開催していく。

○商店街はお店と買い物客の間でコミュニケーションがあり、高齢者への声かけ、見守りの場となっているため、今後も取り組んでいく。

○全国鵜の木まつりや町会の盆踊りなど幅広い世代が参加できるお祭りが多いことから、多世代間交流の推進につながる取組を進めていく。

○町会、民生委員、鵜の木特別出張所、地域包括支援センター、様々な関係者が連携を取り合い、元気塾をはじめ、地域ぐるみで健康づくりを推進していく。

久が原

地域データ

【地域の人口等】

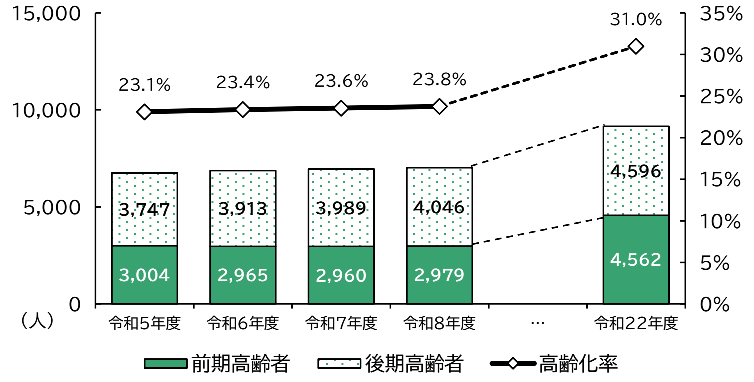
管轄人口:29,215 人
高齢者数:6,751 人(23.1%)
(うち単身高齢者数:2,092 人)

単位:人

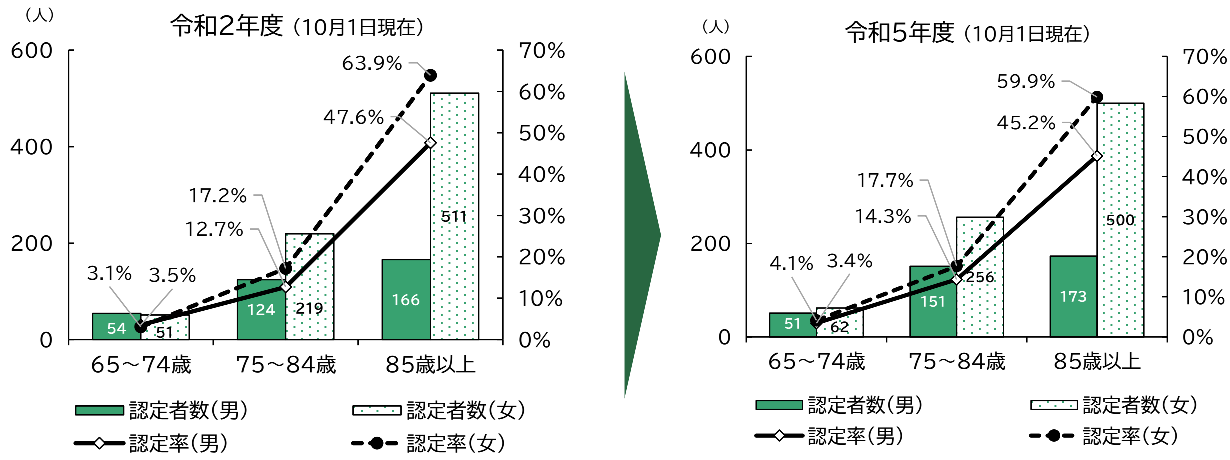
	男性	女性
0～14歳	1,901	1,817
15～64歳	9,359	9,387
65～74歳	1,491	1,513
75歳以上	1,443	2,304
単身高齢者	653	1,439

見守りキーホルダー登録者数:1,353 人

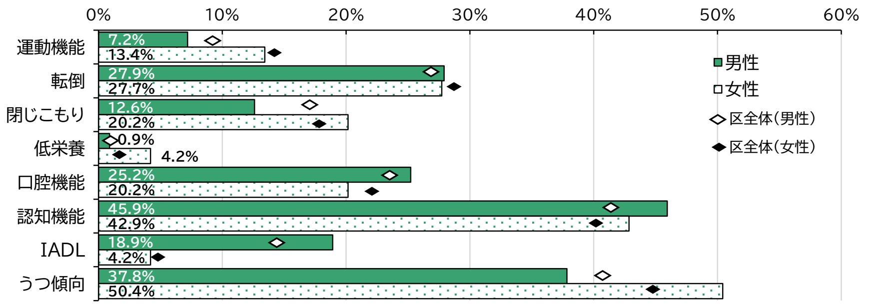
【高齢者人口の将来推計】



【要介護認定率の推移】



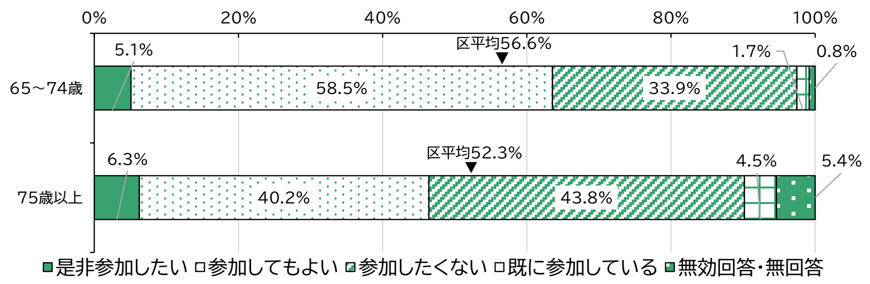
【ニーズ調査におけるリスク傾向】(令和4年度大田区高齢者等実態調査の結果より)



各リスク指標について、おおむね区全体と同様となっています。

女性は「閉じこもり」、「認知機能」、「うつ傾向」において、また男性は、「転倒」、「口腔機能」、「認知機能」、「IADL」において、区全体よりも割合が高くなっています。

【地域づくりへの参加意向】(令和4年度大田区高齢者等実態調査の結果より)



※区平均は「是非参加したい」「参加してもよい」の合計

前期高齢者は、6割以上が地域づくりへの参加意向があると回答しており、区平均を上回っています。

後期高齢者は、地域づくりへの参加意向があるとの回答割合が区平均を下回っていますが、「既に参加している」の割合は前期高齢者よりも高くなっています。

久が原地域における高齢者の健康づくりの状況

【「大田区シニアの健康長寿に向けた実態調査2022」の結果より】

	男性（区平均）	女性（区平均）
フレイル該当率	41.0%（40.1%）	30.0%（29.7%）
１週間当たりの歩行時間150分以上	34.2%（43.1%）	36.7%（37.3%）
筋力運動の実践者	23.0%（22.4%）	29.1%（28.3%）
体操・ストレッチの実践者	24.6%（20.8%）	35.8%（30.8%）
１kmの連続歩行ができる	28.1%（26.3%）	31.4%（27.4%）

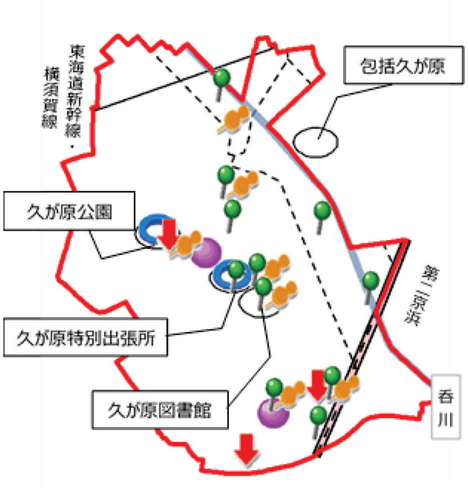
	男性（区平均）	女性（区平均）
食品摂取の多様性得点3点以下	66.7%（65.6%）	37.8%（49.1%）
抑うつの割合	36.4%（40.2%）	37.9%（41.9%）
社会的孤立の該当者	52.8%（51.7%）	28.0%（30.6%）
月に1回以上社会活動に参加している	30.0%（29.1%）	47.1%（39.2%）

【地域の通いの場】

認知症予防・認知症カフェ	2 団体
体操	18 団体
趣味活動	12 団体
茶話会・会食	5 団体
その他	2 団体

※複数団体ある施設

久が原図書館	体操2団体、趣味活動1団体
久が原特別出張所	認知症関連1団体、体操2団体



※点線はバスの路線図となります。

久が原地域の課題と取組

【地域の現状と課題】

○『大田区シニアの健康長寿に向けた実態調査 2022 実施報告書』によると、区内18地区の中で、幸福感の高い高齢者割合が高く、特に近隣の人への信頼感が高い高齢者割合が高い。パソコンやスマートフォン等での情報検索、ビデオ通話の使用、ソーシャルネットワークの利用をしている高齢者割合が高い。

○久が原地区地域防災協議会を設置し、「安心安全なまち久が原」の実現をめざし、地域の防災活動に力を入れており、企業の参加も増えている。災害に備え、支え合いの関係をより強固にする必要がある。

○地域活動への新しいメンバーの参加及びその継続に課題があり、新しい輪が広がらない。

○令和2年からの新型コロナウイルス感染症流行により、外出・運動の機会や人とのコミュニケーションが減り、フレイル状態に陥る高齢者が増えた可能性が高い。

【課題への取組】

○久が原ルール（防災の取組）の「自助・近助・共助・公助」を推進し、世代を問わずご近所同士で声をかけ合える仕組みづくりに取り組む。自治会、民生委員児童委員、久が原特別出張所、地域包括支援センター等を中心に様々な団体と連携を図り、「安心安全なまち久が原」の実現をめざす。

○令和5年度に久が原地区自治会連合会で LINE 公式アカウントを取得し、子育て世代をメインターゲットにし、地域情報の発信の強化を図り、新たな担い手づくりなど高齢者の課題解決も含めて取り組む。

○令和4年度に久が原地区全5自治会で体力測定会を開催し、令和5年度は実行委員会を立ち上げて計画を進め開催した。今後も継続し、「健康づくり一番の町」としてフレイル予防を推進する。

○地域の様々な年代に向けて認知症サポーター養成講座を開催し、認知症を理解して地域で緩やかな見守りができる環境づくりを継続して推進する。

雪谷

地域データ

【地域の人口等】

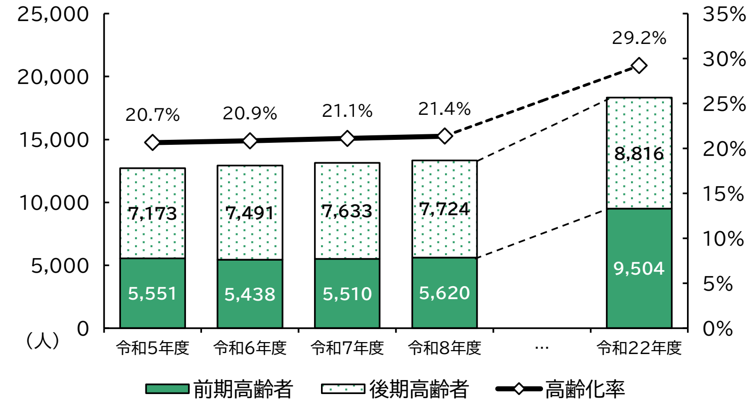
管轄人口:61,593 人
高齢者数:12,724 人(20.7%)
(うち単身高齢者数:4,183 人)

単位:人

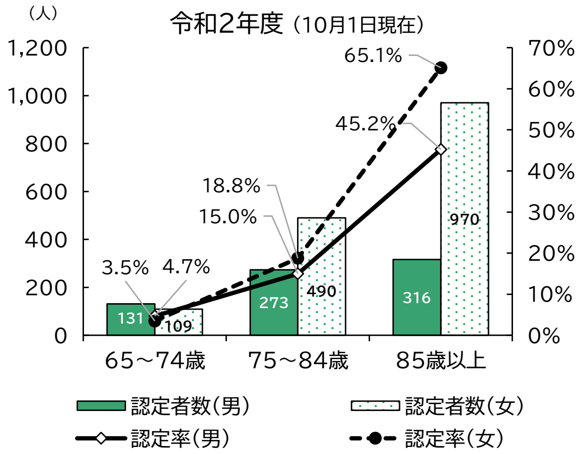
	男性	女性
0～14歳	3,730	3,615
15～64歳	20,420	21,104
65～74歳	2,629	2,922
75歳以上	2,796	4,377
単身高齢者	1,302	2,881

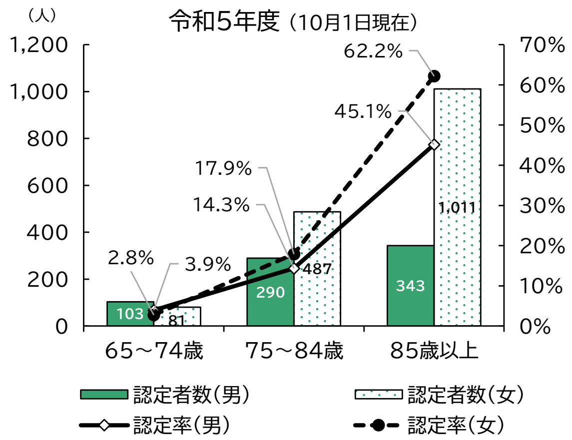
見守りキーホルダー登録者数:2,203 人

【高齢者人口の将来推計】

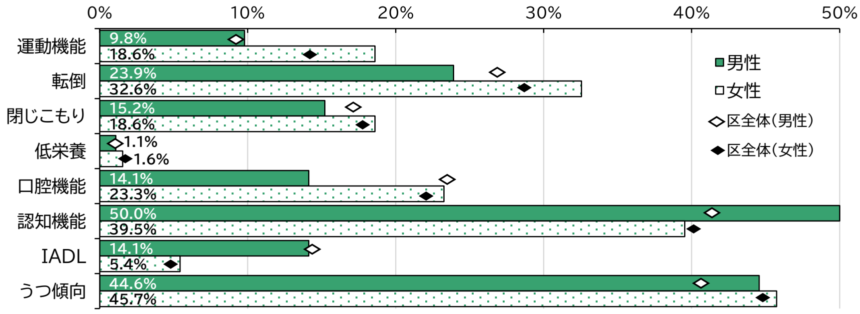


【要介護認定率の推移】





【ニーズ調査におけるリスク傾向】(令和4年度大田区高齢者等実態調査の結果より)

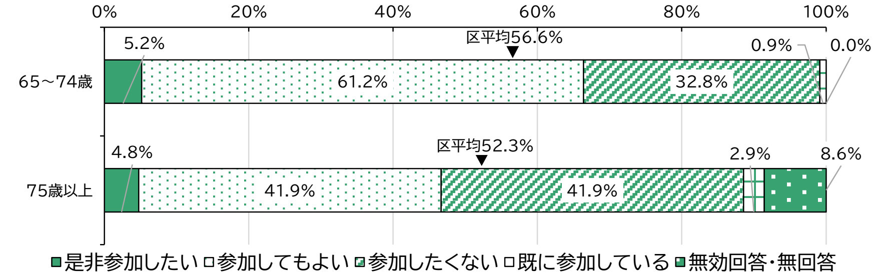


各リスク指標について、おおむね区全体と同様となっています。

男性は、「口腔機能」の割合が区全体よりも低い一方、「認知機能」は高くなっています。

また、女性は「運動機能」、「転倒」の割合が区全体よりもやや高くなっています。

【地域づくりへの参加意向】(令和4年度大田区高齢者等実態調査の結果より)



※区平均は「是非参加したい」「参加してもよい」の合計

前期高齢者は、約7割が地域づくりへの参加意向があると回答しており、区平均を 9.8 ポイント上回っています。

他方、後期高齢者は地域づくりへの参加意向があるとの回答割合が5割未満であり、区平均を下回っています。

雪谷地域における高齢者の健康づくりの状況

【「大田区シニアの健康長寿に向けた実態調査2022」の結果より】

	男性（区平均）	女性（区平均）
フレイル該当率	38.7%（40.1%）	19.3%（29.7%）
１週間当たりの歩行時間150分以上	43.3%（43.1%）	32.2%（37.3%）
筋力運動の実践者	23.5%（22.4%）	27.3%（28.3%）
体操・ストレッチの実践者	24.2%（20.8%）	29.7%（30.8%）
１kmの連続歩行ができる	23.7%（26.3%）	19.4%（27.4%）

	男性（区平均）	女性（区平均）
食品摂取の多様性得点3点以下	65.0%（65.6%）	48.7%（49.1%）
抑うつの割合	35.2%（40.2%）	36.5%（41.9%）
社会的孤立の該当者	51.6%（51.7%）	20.9%（30.6%）
月に1回以上社会活動に参加している	27.4%（29.1%）	45.2%（39.2%）

【地域の通いの場】

認知症予防・認知症カフェ	１団体
体操	５団体
趣味活動	１団体
茶話会・会食	１団体
その他	４団体

雪谷地域の課題と取組

【地域の現状と課題】

○春は桜、夏は青葉が楽しめ、水辺のある遊歩道や公園、由緒ある坂道が多く点在する自然豊かな低層住宅街である。

○地域活動は、「公園スタンプラリー」や「夏祭り・盆踊り」等、こどもから大人まで楽しめるイベントを各自治会の役員が中心となり実施している。

○各自治会では、防災や防犯に対する意識が高く、「防災訓練」、「大森第十中学校避難所運営協議会」、「LED への変更」、「防犯カメラの設置」等、地域の安全のために、できることから実施している。

○エリアが広く通いの場が限定され、閉じこもりがちな高齢者は、通いの場に行くことが難しくなっている。

○高齢者にとって坂道は病気やけがの要因にもなることから、一人ひとりのフレイル予防意識を高めるとともに、地域全体で高齢者の健康を支える取組が必要である。

【課題への取組】

○閉じこもりがちなひとり暮らし高齢者に対し、民生・児童委員が電話や訪問での安否確認を積極的に行い、地域住民がともに支え合う地域づくりを進めている。

○東京都の高齢者向けスマートフォン利用普及啓発事業と同時に見守りキーホルダー登録・更新会を行うことで、地域包括支援センターの周知に努め、地域とのつながりを深める。

○若い年代やシニア世代まで幅広く「認知症サポーター養成講座」や「認知症講座」等を行い、認知症に関する正しい知識や理解を広める。

千束

地域データ

【地域の人口等】

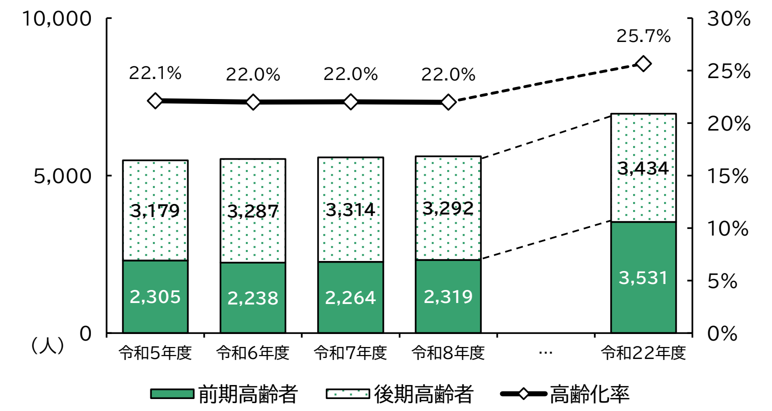
管轄人口:24,777 人
高齢者数:5,484 人(22.1%)
(うち単身高齢者数:1,890 人)

単位:人

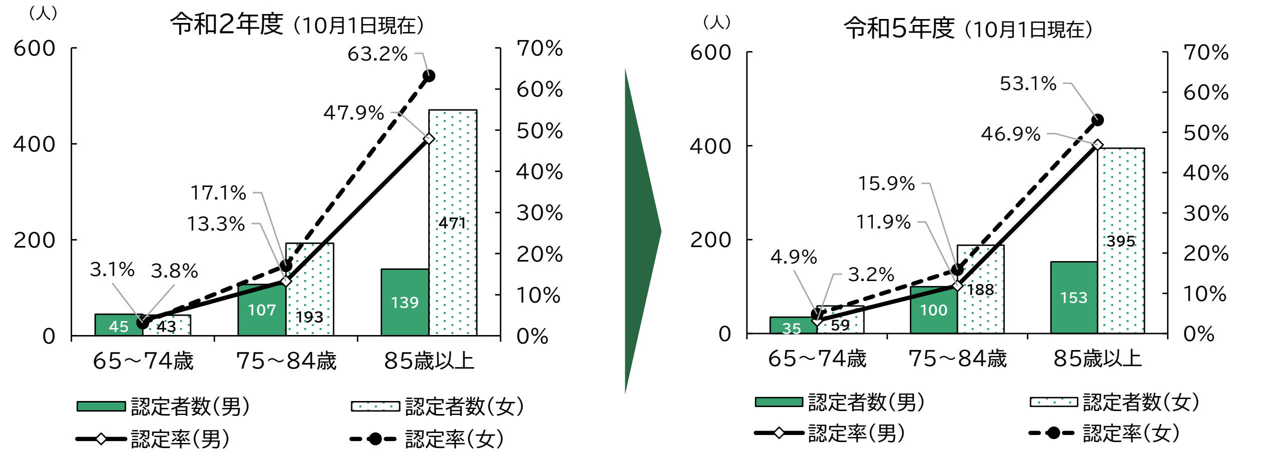
	男性	女性
0～14歳	1,265	1,279
15～64歳	8,086	8,663
65～74歳	1,088	1,217
75歳以上	1,193	1,986
単身高齢者	518	1,372

見守りキーホルダー登録者数:1,128 人

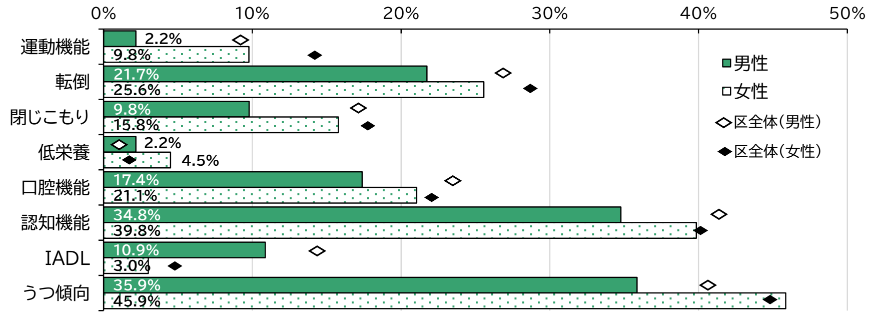
【高齢者人口の将来推計】



【要介護認定率の推移】



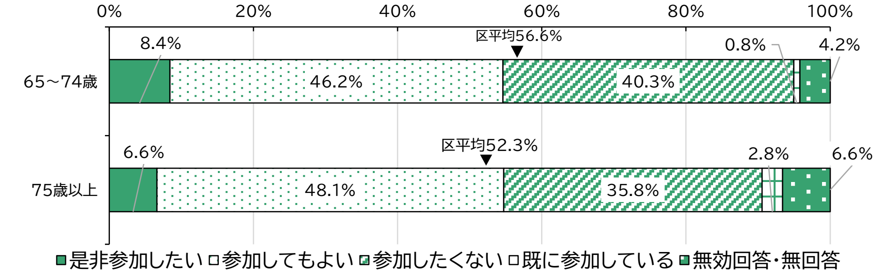
【ニーズ調査におけるリスク傾向】(令和4年度大田区高齢者等実態調査の結果より)



各リスク指標について、「低栄養」を除き、男女ともに総じて区全体よりもリスク判定割合が低くなっています。

なお、特に男性においてその傾向が顕著に表れています。

【地域づくりへの参加意向】(令和4年度大田区高齢者等実態調査の結果より)



※区平均は「是非参加したい」「参加してもよい」の合計

前期・後期高齢者ともに約5割が地域づくりへの参加意向を示しており、区全体とおおむね同様の傾向です。

また前期高齢者の 8.4%、後期高齢者の 6.6%が「是非参加したい」という強い意向を示しています。

千束地域における高齢者の健康づくりの状況

【「大田区シニアの健康長寿に向けた実態調査2022」の結果より】

	男性 （区平均）	女性 （区平均）
フレイル該当率	37.7%（40.1%）	23.3%（29.7%）
１週間当たりの歩行時間150分以上	37.8%（43.1%）	30.5%（37.3%）
筋力運動の実践者	32.8%（22.4%）	29.6%（28.3%）
体操・ストレッチの実践者	34.5%（20.8%）	34.4%（30.8%）
１kmの連続歩行ができる	28.0%（26.3%）	24.2%（27.4%）

	男性 （区平均）	女性 （区平均）
食品摂取の多様性得点3点以下	65.1%（65.6%）	38.1%（49.1%）
抑うつの割合	29.4%（40.2%）	43.5%（41.9%）
社会的孤立の該当者	45.0%（51.7%）	27.4%（30.6%）
月に1回以上社会活動に参加している	35.6%（29.1%）	41.9%（39.2%）

【地域の通いの場】

○	認知症予防・認知症カフェ	0 団体
	体操	2 団体
	趣味活動	0 団体
↓	茶話会・会食	2 団体
●	その他	6 団体

※点線はバスの路線図となります。

千束地域の課題と取組

【地域の現状と課題】

○品川、目黒、世田谷区に隣接、2本の幹線道路（中原街道・環七通り）に挟まれ東急目黒線・大井町線が縦断、ランドマークとして東京工業大学と洗足池が位置している。

○坂が多い立地で路線バスがなく、足腰が悪くなったり、筋力が低下したりすると途端に通院や買物等の移動が困難となってしまう。

○地域の高齢者が集い交流を深め、日常的に支え合い、安心できる「地域づくり」を目的にした「地域ふれあいの会」の活動を年6回、65 歳以上の方 、約 30 名を対象に開催。主として千束特別出張所を会場に演奏会、健康の講演等、数多くのイベントを開催している。

○気楽に集えたり、フレイル・予防教室等に活用できたりする公共施設が少ないが、区内唯一の看護小規模多機能施設が令和3年にオープンしている。また、令和5年度には、出張所と地域包括支援センターを移転し、シニアステーションも新設された複合施設が誕生しており、今後も自助・共助での健康づくりに地域で取り組んでいく必要がある。

【課題への取組】

○「地域ふれあいの会」の取組を地域全体で支え、協力して推進する。

○健康づくりのため、専門職や地域住民がともに考え、社会資源や洗足池の立地を生かしたフレイル予防方法を構築していく。

○日常生活圏域レベルの地域ケア会議である「地域包括ケアの会」で、多職種による専門性に地域住民の視点も加え、地域課題の解決や取組を検討していく。

六郷

地域データ

【地域の人口等】

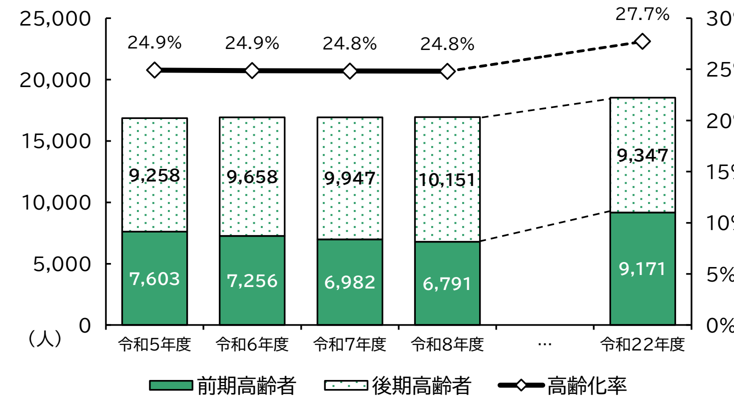
管轄人口:67,672 人
高齢者数:16,861 人(24.9%)
(うち単身高齢者数:6,274 人)

単位:人

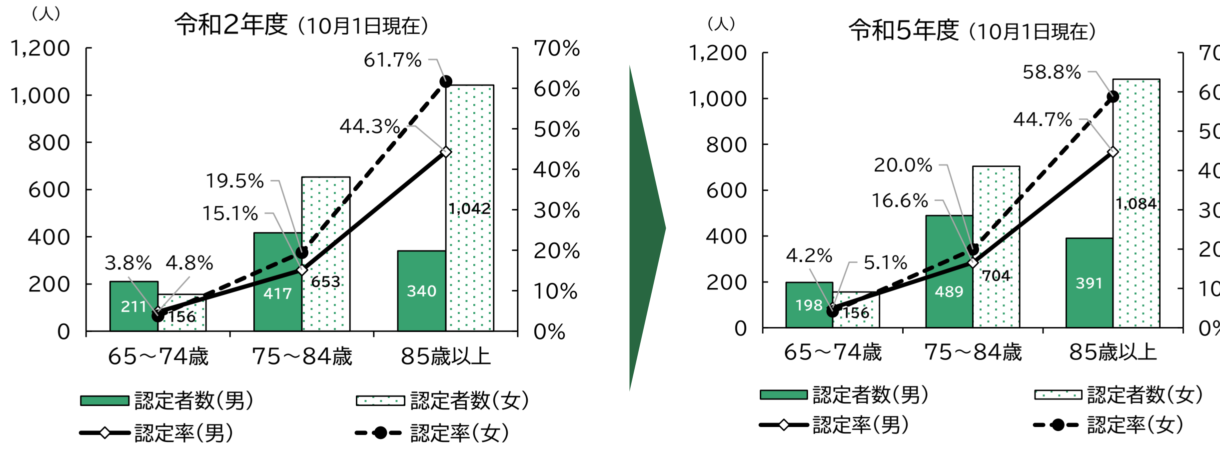
	男性	女性
0～14歳	3,832	3,585
15～64歳	23,139	20,255
65～74歳	3,882	3,721
75歳以上	3,845	5,413
単身高齢者	2,611	3,663

見守りキーホルダー登録者数:4,372 人

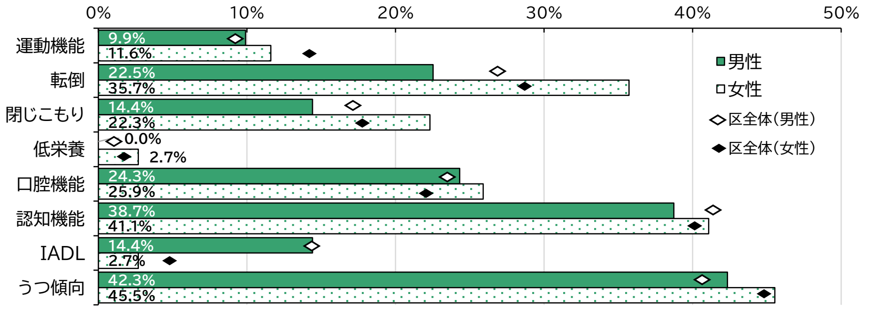
【高齢者人口の将来推計】



【要介護認定率の推移】



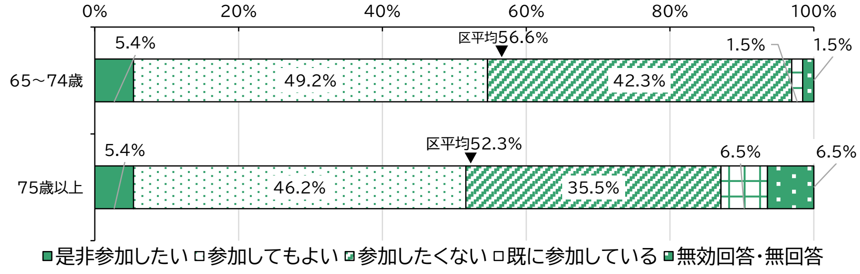
【ニーズ調査におけるリスク傾向】(令和4年度大田区高齢者等実態調査の結果より)



各リスク指標について、おおむね区全体の傾向と同様となっています。

なお、「転倒」、「閉じこもり」のリスク判定について、男性は区全体よりも割合が低い傾向にある一方、女性は区全体よりも割合が高い傾向が見られます。

【地域づくりへの参加意向】(令和4年度大田区高齢者等実態調査の結果より)



※区平均は「是非参加したい」「参加してもよい」の合計

前期・後期高齢者とも約5割が地域づくりへの参加意向があると回答しており、区全体とおおむね同様の傾向です。

なお、「既に参加している」の割合は後期高齢者の方が高く、6.5%となっています。

六郷地域における高齢者の健康づくりの状況

【「大田区シニアの健康長寿に向けた実態調査2022」の結果より】

	男性 （区平均）	女性 （区平均）
フレイル該当率	48.8%（40.1%）	37.5%（29.7%）
１週間当たりの歩行時間150分以上	48.8%（43.1%）	40.7%（37.3%）
筋力運動の実践者	13.9%（22.4%）	25.0%（28.3%）
体操・ストレッチの実践者	18.2%（20.8%）	31.6%（30.8%）
1 kmの連続歩行ができる	32.6%（26.3%）	32.5%（27.4%）

	男性 （区平均）	女性 （区平均）
食品摂取の多様性得点3点以下	72.6%（65.6%）	53.8%（49.1%）
抑うつの割合	47.5%（40.2%）	41.8%（41.9%）
社会的孤立の該当者	56.2%（51.7%）	33.1%（30.6%）
月に1回以上社会活動に参加している	20.0%（29.1%）	36.2%（39.2%）

【地域の通いの場】

認知症予防・認知症カフェ	２団体
体操	19 団体
趣味活動	４団体
茶話会・会食	１団体
その他	０団体

※複数団体ある施設

六郷地域力推進センター	認知症関連1団体、体操8団体、趣味活動2団体、茶話会・会食１団体
六郷文化センター	体操3団体、趣味活動1団体
地域包括支援センター西六郷	認知症関連1団体、体操1団体

※点線はバスの路線図となります。

六郷地域の課題と取組

【地域の現状と課題】

○新型コロナウイルス感染症の影響もあり、活動を休止している団体もあるが、自治会・町会、シニアクラブ等による、高齢者の交流を目的としたサロン・体操教室・ポールウォーク・見守り・在宅の高齢者への配食等の活動が徐々に活動を再開している。地域のつながりを実感している人も多い。

○高齢化率が区内で2番目に高く、高齢者人口は最も多い。このうち4割弱が単身高齢者である。

○令和4年度大田区高齢者等実態調査の結果からは、男性は抑うつの割合が高く、コロナで社会との分断を感じた結果の可能性がある。

○令和3～4年度の地域ケア会議をきっかけに様々な機関が連携し、食品摂取品目を確認できる「食べポチャレンジ」のチェック表を地域住民に配布・回収を行い、チェック表を新たに使用したことがある人の割合や認知度が高まった。

○フレイル該当率が大田区平均よりも高い。

【課題への取組】

○食品摂取の多様性得点が7点以上の方が増えるよう、今後も継続して特に栄養に着目しながら、フレイル予防について発信していく。

○スーパーや地域の商店街などでの栄養バランスの周知など、生活の実態に応じてフレイル予防に取り組めるような支援を行う。

○高齢者の孤立を防ぐために自治会・町会や関係機関と情報を共有し、孤立防止や抑止について話し合い、地域包括支援センターは電話や訪問での実態把握を行う。

矢口

地域データ

【地域の人口等】

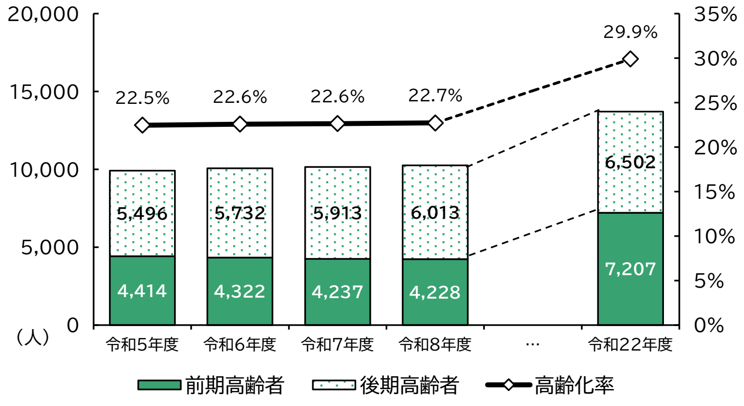
管轄人口:44,127 人
高齢者数:9,910 人(22.5%)
(うち単身高齢者数:3,542 人)

単位:人

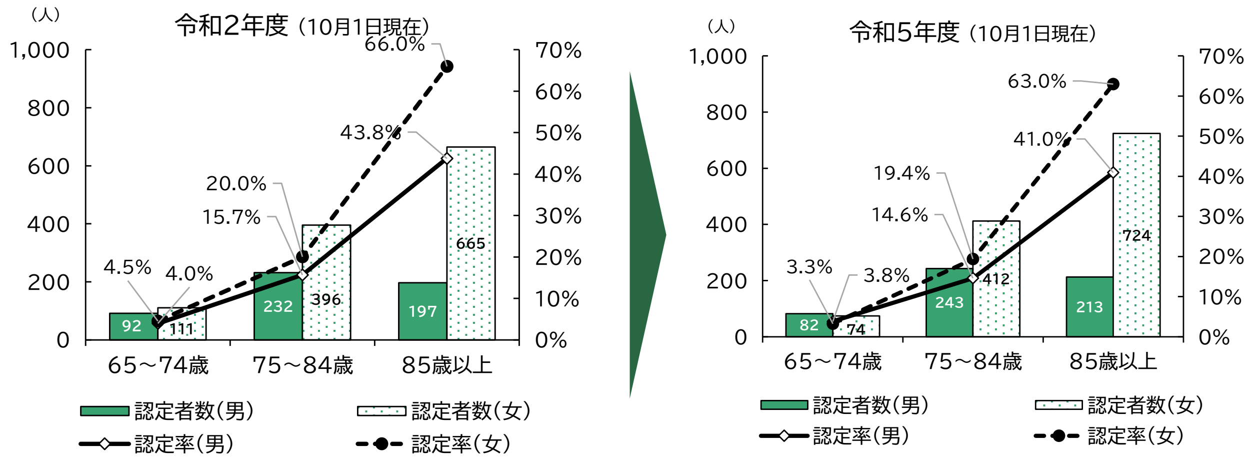
	男性	女性
0～14歳	2,298	2,124
15～64歳	14,704	15,091
65～74歳	2,147	2,267
75歳以上	2,188	3,308
単身高齢者	1,202	2,340

見守りキーホルダー登録者数:2,319 人

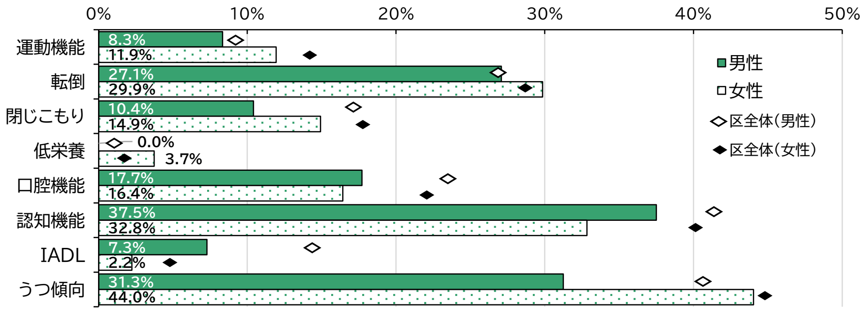
【高齢者人口の将来推計】



【要介護認定率の推移】



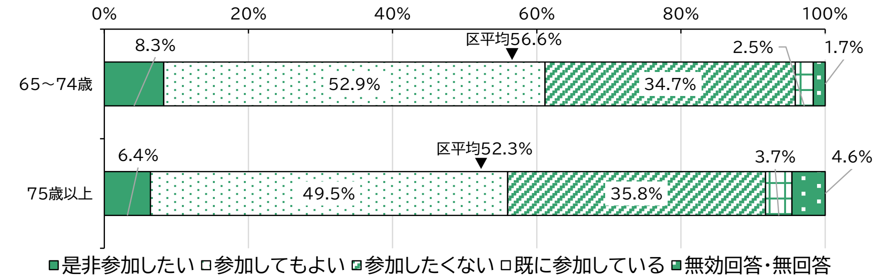
【ニーズ調査におけるリスク傾向】(令和4年度大田区高齢者等実態調査の結果より)



各リスク指標について、男女ともに、総じて区全体よりもリスク判定割合が低くなっています。

特に「閉じこもり」や「口腔機能」、「認知機能」について顕著であり、また男性では「うつ傾向」の割合が低いという特徴が見られます。

【地域づくりへの参加意向】(令和4年度大田区高齢者等実態調査の結果より)



※区平均は「是非参加したい」「参加してもよい」の合計

前期高齢者は約6割、後期高齢者は約5割が地域づくりへの参加意向があると回答しており、ともに区平均を上回っています。

なお、前期高齢者の 8.3%、後期高齢者の 6.4%は「是非参加したい」という強い意向を示しています。

矢口地域における高齢者の健康づくりの状況

【「大田区シニアの健康長寿に向けた実態調査2022」の結果より】

	男性（区平均）	女性（区平均）
フレイル該当率	43.1%（40.1%）	30.6%（29.7%）
１週間当たりの歩行時間150分以上	41.5%（43.1%）	33.6%（37.3%）
筋力運動の実践者	19.5%（22.4%）	30.0%（28.3%）
体操・ストレッチの実践者	15.6%（20.8%）	27.9%（30.8%）
１kmの連続歩行ができる	23.9%（26.3%）	29.3%（27.4%）

	男性（区平均）	女性（区平均）
食品摂取の多様性得点3点以下	65.3%（65.6%）	56.2%（49.1%）
抑うつの割合	44.7%（40.2%）	41.8%（41.9%）
社会的孤立の該当者	55.1%（51.7%）	34.3%（30.6%）
月に1回以上社会活動に参加している	26.5%（29.1%）	37.4%（39.2%）

【地域の通いの場】

認知症予防・認知症カフェ	２団体
体操	17 団体
趣味活動	8 団体
茶話会・会食	1 団体
その他	2 団体

※複数団体ある施設

矢口区民センター	体操7団体、趣味活動4団体
大田区民プラザ	体操2団体
特別養護老人ホームたまがわ	認知症関連1団体、 茶話会・会食1団体

※点線はバスの路線図となります。

矢口地域の課題と取組

【地域の現状と課題】

○新型コロナウイルス感染症の影響により外出の機会や人との交流が減り、運動不足による体力低下や物忘れを訴える相談が増加した。

○多摩川の氾濫や高潮被害による浸水の可能性がある区域がある。防災情報紙「Yaguchi Bousai Talk」の発行、また、定期的に学校防災活動拠点訓練や各自治会町会単位での防災訓練を行っている。

○地域力推進会議高齢者見守り検討分科会があり、矢口シニア健康サロンやポールウォーク体験会等を開催し、フレイル予防や高齢者の見守りについて検討している。

○矢口区民センター・大田区民プラザという拠点もあり、体操・趣味活動等、多様な活動が行われている。また、自治会・町会、シニアクラブ、介護事業所等によるサロン・体操教室・ポールウォーク等の取組が多くあるが、活動の情報が得られていない高齢者も多い。フレイル該当率も区平均より高い傾向にある。

【課題への取組】

○未把握のひとり暮らし高齢者等世帯に訪問等を行い、見守りキーホルダー・ひとり暮らし高齢者登録勧奨等を行い、支援が必要な高齢者の把握と適切な支援につなげていく。

○各自治会・町会単位で通いの場の活動が行われるよう、立ち上げや活動の継続を支援する。地域とのつながりが少ない男性の高齢者、また、認知症当事者やその家族等が安心して気軽に集え、交流できる居場所づくりを行っていく。

○外出する機会を増やすとともに、地域を知ってもらうよう、たまちゃんバスを移動手段として活用を促す。

○自治会・町会、民生委員児童委員、関係機関等と連携し、支援等が必要な高齢者について情報共有し、矢口地区全体で見守りが行えるよう地域づくりを図っていく。

蒲田西

地域データ

【地域の人口等】

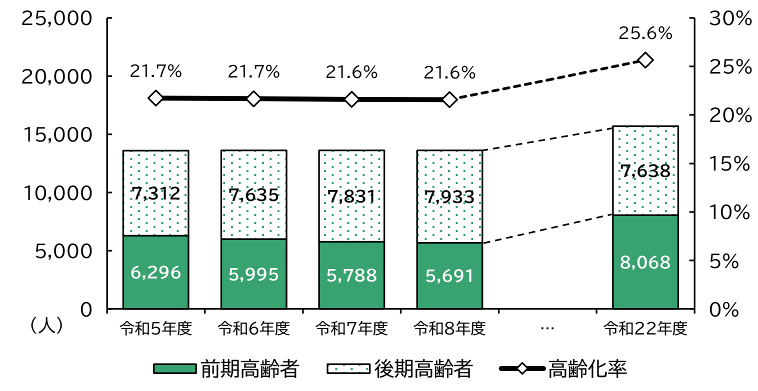
管轄人口：62，605 人
高齢者数：13，608 人（21.7％）
（うち単身高齢者数：5，343 人）

単位：人

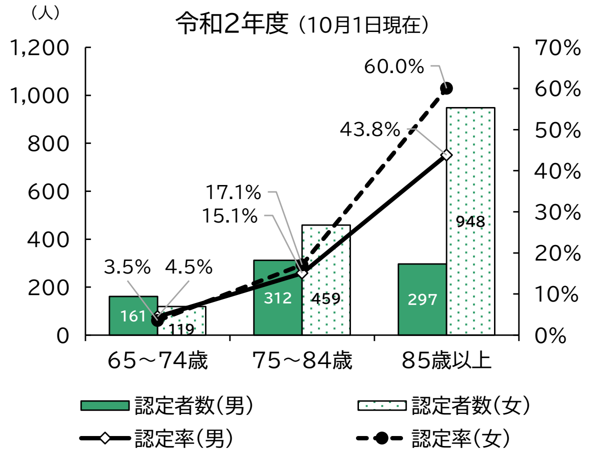
	男性	女性
0～14歳	2，879	2，792
15～64歳	23，405	19，921
65～74歳	3，246	3，050
75歳以上	2，927	4，385
単身高齢者	2，144	3，199

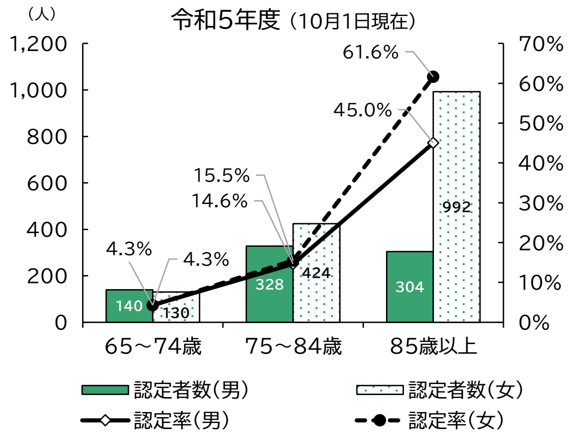
見守りキーホルダー登録者数：2,632 人

【高齢者人口の将来推計】

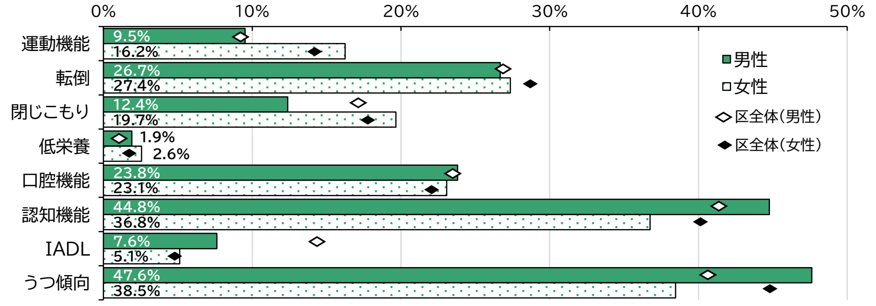


【要介護認定率の推移】



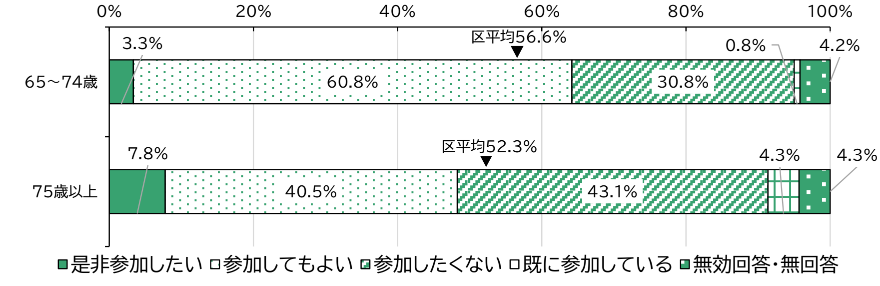


【ニーズ調査におけるリスク傾向】（令和4年度大田区高齢者等実態調査の結果より）



各リスク指標について、おおむね区全体の傾向と同様となっていますが、男性では「閉じこもり」や「IADL」、女性では「認知機能」や「うつ傾向」のリスク判定について、区全体よりも割合が低くなっています。

【地域づくりへの参加意向】（令和4年度大田区高齢者等実態調査の結果より）



※区平均は「是非参加したい」「参加してもよい」の合計

前期高齢者は、約6割が地域づくりへの参加意向があると回答しており、区平均を上回っています。
また、後期高齢者の地域づくりへの参加意向は区全体を下回っているものの、7.8％が「是非参加したい」と回答しています。

蒲田西地域における高齢者の健康づくりの状況

【「大田区シニアの健康長寿に向けた実態調査2022」の結果より】

	男性（区平均）	女性（区平均）
フレイル該当率	45.0%（40.1%）	32.3%（29.7%）
１週間当たりの歩行時間150分以上	39.3%（43.1%）	38.2%（37.3%）
筋力運動の実践者	23.9%（22.4%）	25.2%（28.3%）
体操・ストレッチの実践者	22.2%（20.8%）	32.0%（30.8%）
１kmの連続歩行ができる	26.7%（26.3%）	31.8%（27.4%）

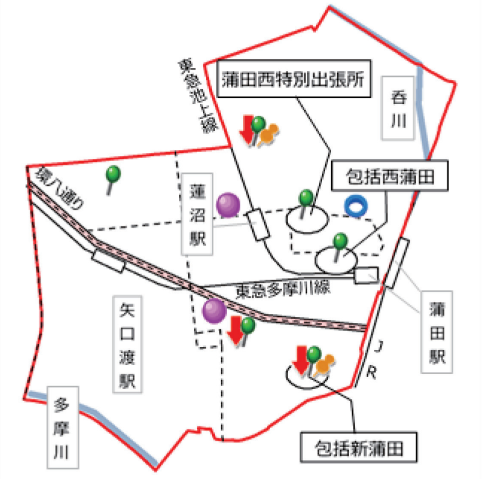
	男性（区平均）	女性（区平均）
食品摂取の多様性得点3点以下	65.0%（65.6%）	53.5%（49.1%）
抑うつの割合	45.6%（40.2%）	38.9%（41.9%）
社会的孤立の該当者	52.6%（51.7%）	32.9%（30.6%）
月に1回以上社会活動に参加している	29.1%（29.1%）	26.7%（39.2%）

【地域の通いの場】

認知症予防・認知症カフェ	１団体
体操	12 団体
趣味活動	３団体
茶話会・会食	３団体
その他	２団体

※複数団体ある施設

新蒲田一丁目複合施設 カムカム新蒲田	体操7団体、趣味活動2団体、 茶話会・会食1団体
ふれあいはすぬま	体操1団体、趣味活動1団体、 茶話会・会食1団体



※点線はバスの路線図となります。

蒲田西地域の課題と取組

【地域の現状と課題】

○町会会館・神社社務所・商店・ふれあいはすぬま・特別出張所・シニアステーション等、多様な場所を活用し、高齢者の交流を目的としたサロン・体操教室・グラウンドゴルフ等多くの活動が行われているが、通いの場が地域によって偏りがある。

○自主的な見守り活動を実施している自治会・町会、シニアクラブがある。

○特にひとり暮らしの男性に、地域と関わりが少なく、フレイル予防に取り組めない人が多い。

○単身用の古い集合住宅が多いエリアがある。居住者の中には、判断能力が低下して金銭管理、契約等が困難となった際に支援できる家族・親族がいない人も多い。

【課題への取組】

○高齢者が歩いて行ける範囲で何らかの活動に参加できるように、各自治会・町会の範囲の区域に、通いの場の活動が行われるよう支援する。

○ICT の積極的な活用を支援する。スマホ教室・スマホ相談会・オンラインを活用した体操教室を地域で開催できるよう提案していく。

○自治会・町会や民生委員から、地域で行われているサロン等の活動に関する情報を集約・整理し、単身高齢者（特に男性）への周知につなげる。

○大田区社会福祉協議会おおた成年後見センターや法律専門職、その他の機関とも連携して「老いじたく」に向けた支援及び周知活動を行う。

○高齢者の経済困窮に関する状況を相談から早期に把握し、情報提供や関係機関へのつなぎをきめ細かく行い、経済困窮へ陥らないように支援を行っていく。

○地域ケア会議等を通して地域住民と介護事業所等がつながる場をつくり、高齢者を見守るネットワークの構築を推進する。

蒲田東

地域データ

【地域の人口等】

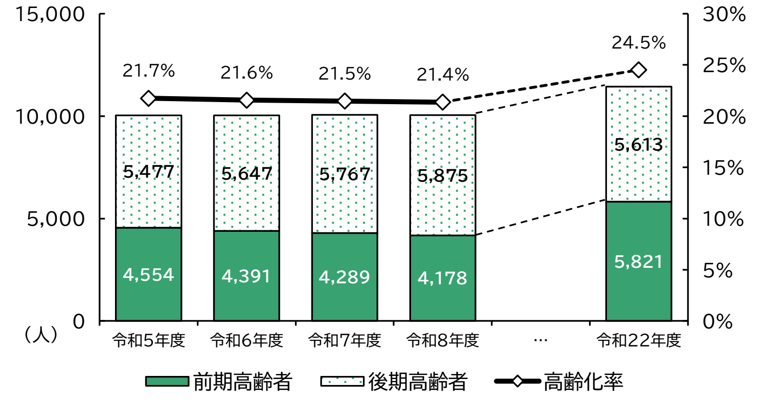
管轄人口:46,147 人
高齢者数:10,031 人(21.7%)
（うち単身高齢者数:4,220 人）

単位:人

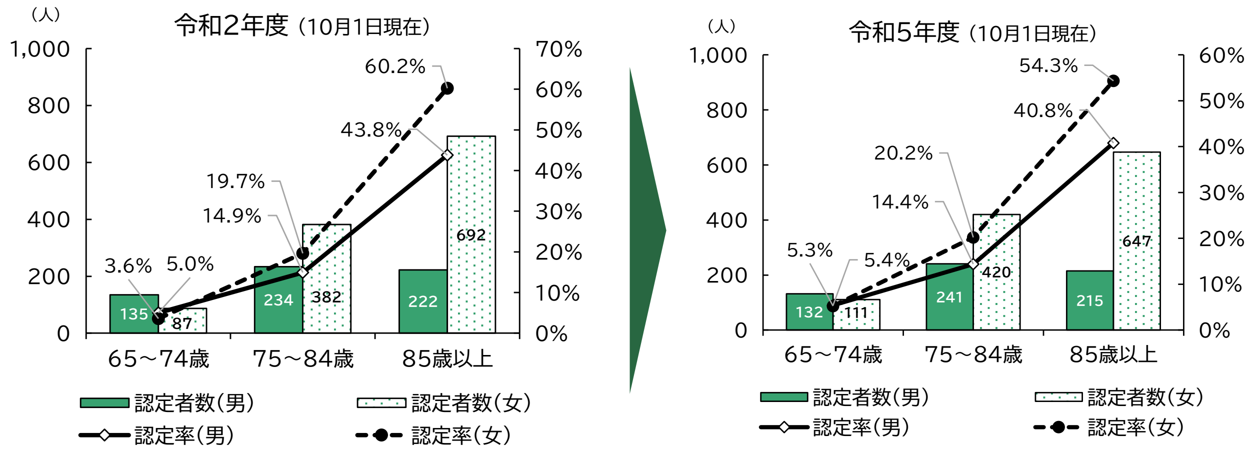
	男性	女性
0～14歳	1,736	1,677
15～64歳	17,688	15,015
65～74歳	2,441	2,113
75歳以上	2,204	3,273
単身高齢者	1,846	2,374

見守りキーホルダー登録者数:2,497 人

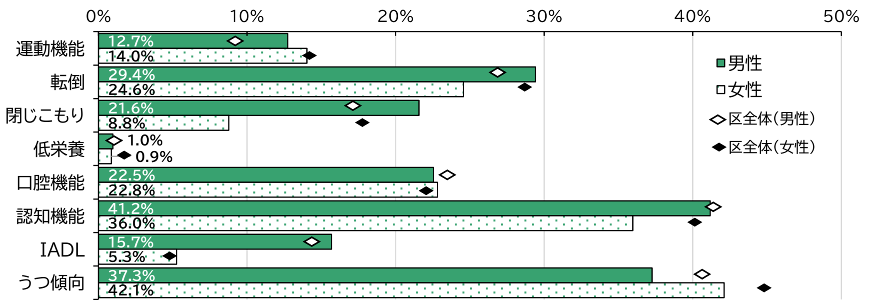
【高齢者人口の将来推計】



【要介護認定率の推移】

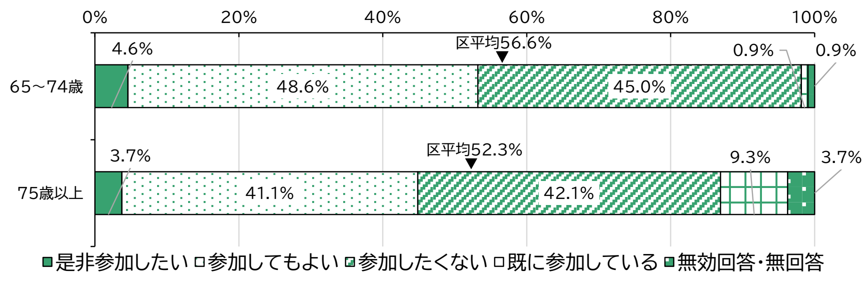


【ニーズ調査におけるリスク傾向】（令和4年度大田区高齢者等実態調査の結果より）



男女ともに、各リスク指標についておおむね区全体の傾向と同様となっています。
ただし、男性では「運動機能」や「転倒」、「IADL」について区全体よりもリスク判定割合が高く、女性では「転倒」や「閉じこもり」のリスク判定割合が低いといった特徴も見られます。

【地域づくりへの参加意向】（令和4年度大田区高齢者等実態調査の結果より）



※区平均は「是非参加したい」「参加してもよい」の合計

前期・後期高齢者ともに、4～5割が地域づくりへの参加意向があると回答していますが、区平均を下回っています。
なお、「既に参加している」の割合は後期高齢者の方が高く、9.3%となっています。

蒲田東地域における高齢者の健康づくりの状況

【「大田区シニアの健康長寿に向けた実態調査2022」の結果より】

	男性（区平均）	女性（区平均）
フレイル該当率	45.0%（40.1%）	26.2%（29.7%）
１週間当たりの歩行時間150分以上	42.1%（43.1%）	40.2%（37.3%）
筋力運動の実践者	20.7%（22.4%）	29.2%（28.3%）
体操・ストレッチの実践者	14.0%（20.8%）	25.0%（30.8%）
１kmの連続歩行ができる	25.0%（26.3%）	32.9%（27.4%）

	男性（区平均）	女性（区平均）
食品摂取の多様性得点3点以下	71.6%（65.6%）	55.6%（49.1%）
抑うつの割合	38.3%（40.2%）	45.5%（41.9%）
社会的孤立の該当者	59.5%（51.7%）	34.3%（30.6%）
月に1回以上社会活動に参加している	23.5%（29.1%）	32.7%（39.2%）

【地域の通いの場】

認知症予防・認知症カフェ	0 団体
体操	16 団体
趣味活動	4 団体
茶話会・会食	0 団体
その他	1 団体

※複数団体ある施設

北蒲広場	体操5団体、趣味活動1団体
蒲田図書館	体操4団体、趣味活動1団体
消費者生活センター	趣味活動2団体

蒲田東地域の課題と取組

【地域の現状と課題】

○大田区総合体育館、消費者生活センター、区民ホールアプリコ、産業プラザ、図書館、老人いこいの家等、地域活動に活用できる公共施設が地区内に多くある。また、医療機関や介護事業所等も、活動場所の提供や講師派遣等、地域活動に協力的である。

○商店街やスーパー、コンビニなどがあり、生活しやすい環境がある。また交通の便も良く、利便性が高い。

○高齢者のうち約4割が単身者であり、地域との関わりが少ない方も一定程度存在する。

【課題への取組】

○「まもりんピック」を始めとする、地域住民の防災意識向上や交流の取組に参加しながら、多世代が暮らしやすいまちづくりの一員として関わっていく。その中で、地域包括支援センターを周知し、相談しやすい関係づくりを行う。

○認知症や男性の孤立化といった地域課題に対応するため、認知症カフェや男性の居場所づくりを実施していく。

○高齢者だけでなく、多世代、多国籍への支援を通し、誰もが安心して暮らせるまちになるよう、関係機関と連携して地域共生社会の実現に向け取り組んでいく。

大森東

地域データ

【地域の人口等】

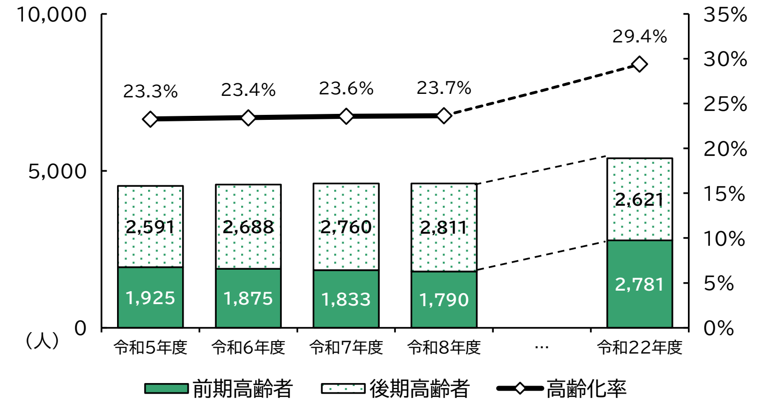
管轄人口:19,401 人
高齢者数:4,516 人(23.3%)
(うち単身高齢者数:1,832 人)

単位:人

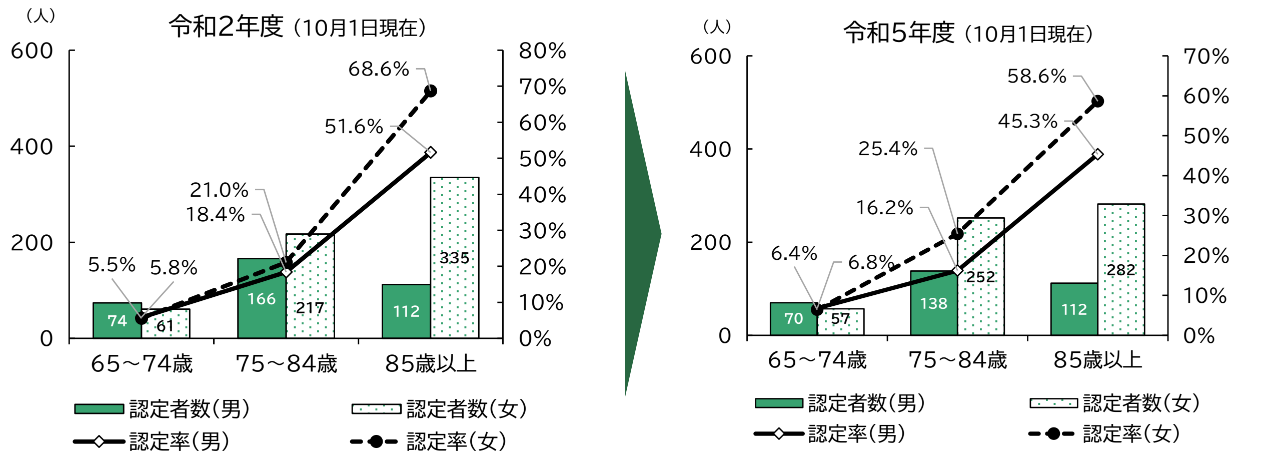
	男性	女性
0～14歳	1,048	1,029
15～64歳	7,025	5,783
65～74歳	1,033	892
75歳以上	1,106	1,485
単身高齢者	863	969

見守りキーホルダー登録者数:1,240 人

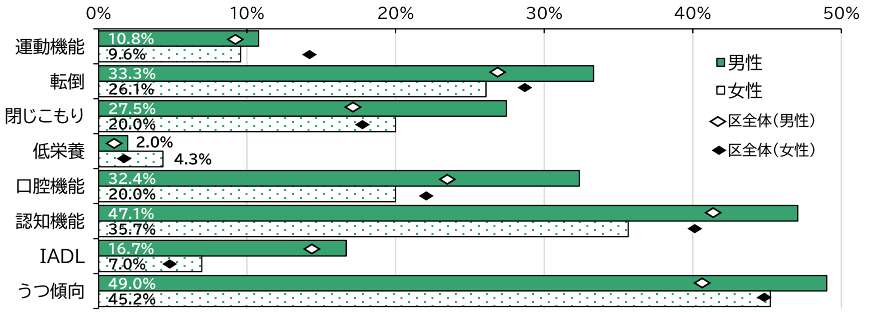
【高齢者人口の将来推計】



【要介護認定率の推移】

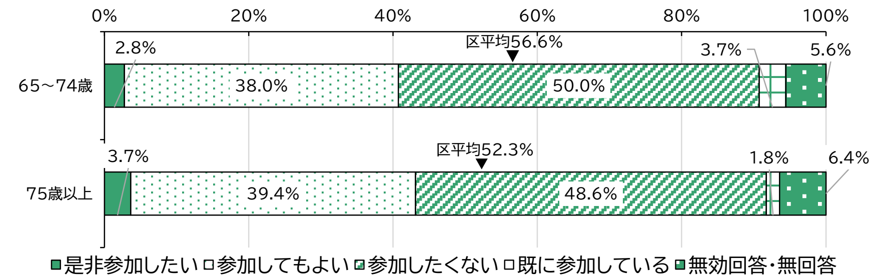


【ニーズ調査におけるリスク傾向】(令和4年度大田区高齢者等実態調査の結果より)



男性は全指標において区全体よりリスク判定割合が高く、特に「閉じこもり」、「口腔機能」、「うつ傾向」に顕著な差が見られます。
一方、女性については「運動機能」、「転倒」、「口腔機能」、「認知機能」において区全体よりも割合が低くなっています。

【地域づくりへの参加意向】(令和4年度大田区高齢者等実態調査の結果より)



※区平均は「是非参加したい」「参加してもよい」の合計

前期・後期高齢者ともに、約4割が地域づくりへの参加意向があると回答していますが、区平均と比べると低い割合となっています。

大森東地域における高齢者の健康づくりの状況

【「大田区シニアの健康長寿に向けた実態調査2022」の結果より】

	男性（区平均）	女性（区平均）
フレイル該当率	43.0%（40.1%）	28.7%（29.7%）
１週間当たりの歩行時間150分以上	51.1%（43.1%）	36.9%（37.3%）
筋力運動の実践者	18.8%（22.4%）	24.8%（28.3%）
体操・ストレッチの実践者	22.8%（20.8%）	18.8%（30.8%）
１kmの連続歩行ができる	34.9%（26.3%）	29.4%（27.4%）

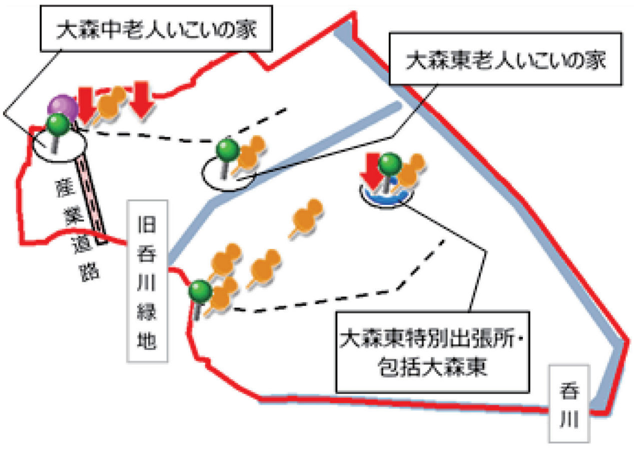
	男性（区平均）	女性（区平均）
食品摂取の多様性得点3点以下	66.7%（65.6%）	51.0%（49.1%）
抑うつの割合	37.6%（40.2%）	33.3%（41.9%）
社会的孤立の該当者	52.5%（51.7%）	32.5%（30.6%）
月に1回以上社会活動に参加している	28.6%（29.1%）	30.6%（39.2%）

【地域の通いの場】

認知症予防・認知症カフェ	１団体
体操	10 団体
趣味活動	７団体
茶話会・会食	３団体
その他	１団体

※複数団体ある施設

大森東特別出張所	認知症関連1団体、体操3団体、趣味活動1団体、 茶話会・会食1団体
大森東老人いこいの家	体操4団体、趣味活動1団体
大森中老人いこいの家	体操2団体
大森南図書館	体操1団体、趣味活動1団体



※点線はバスの路線図となります。

大森東地域の課題と取組

【地域の現状と課題】

（現状）

○「家を行き来するなど親しいつきあいがある」の割合が高く、自治会・町会、シニアクラブ、民生委員などの活動を通じて、地域の横のつながりがある。

○スーパーやコンビニエンスストア、金融機関や郵便局が高齢者の生活基盤を支えている一方、近隣に銭湯や日常生活用品を購入できる場が減り、健康維持・増進に影響を与えている。

（課題）

○地域づくりへの参加意向が前回調査から低下し、地域活動の担い手が減っている。

○男性の「閉じこもり」、「口腔機能」、「うつ傾向」については、前回の調査時と比較してリスク傾向が高くなっていることは、単身高齢男性における、複合的課題の顕在化と符合している。

○ひとりで気軽に利用できる施設が少なく、点在する通いの場も交通の便が悪く、日常的な活用が難しい。

【課題への取組】

○民生委員・地域包括支援センター等による実態把握・見守り活動を充実させる一方、見守り活動の方法等を見直し、担い手の負担感軽減と活動の継承ができるようにしていく。

○集団によるフレイル予防の推進とともに、健康増進に効果があり、ひとりでも気軽に取り組める活動を創出し、普及させる。

○高齢者を含む家庭全体で複雑・多様化する生きづらさを的確にとらえ、支援していくため、関係機関との連携を強化し、包括的かつ継続的な支援を行う。

糀谷

地域データ

【地域の人口等】

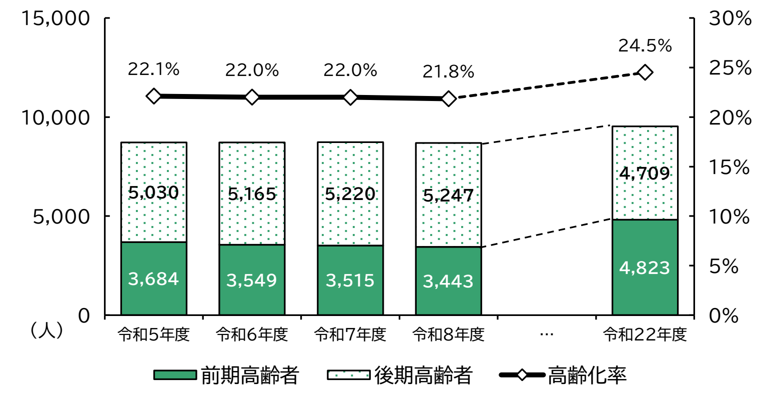
管轄人口:39,411 人
高齢者数:8,714 人(22.1%)
(うち単身高齢者数:3,112 人)

単位:人

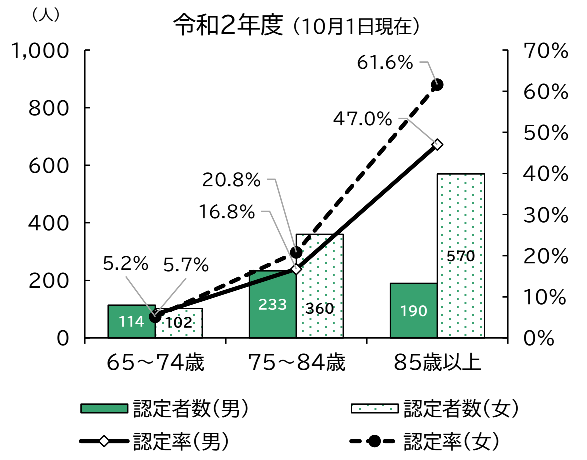
	男性	女性
0～14歳	1,880	1,745
15～64歳	13,681	13,391
65～74歳	1,854	1,830
75歳以上	2,024	3,006
単身高齢者	1,179	1,933

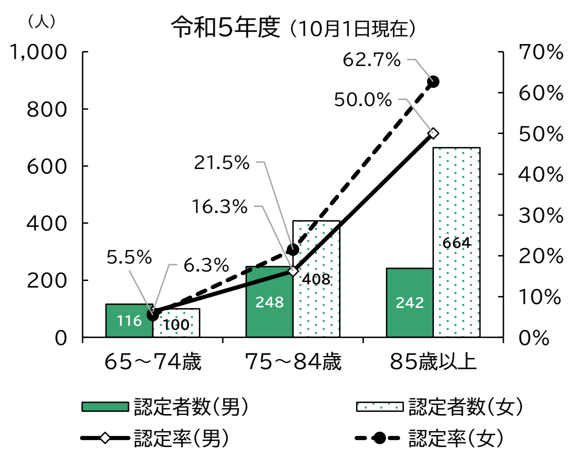
見守りキーホルダー登録者数:2,066 人

【高齢者人口の将来推計】

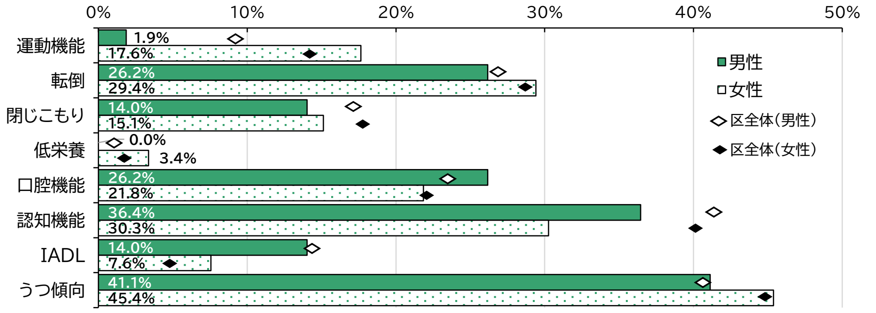


【要介護認定率の推移】





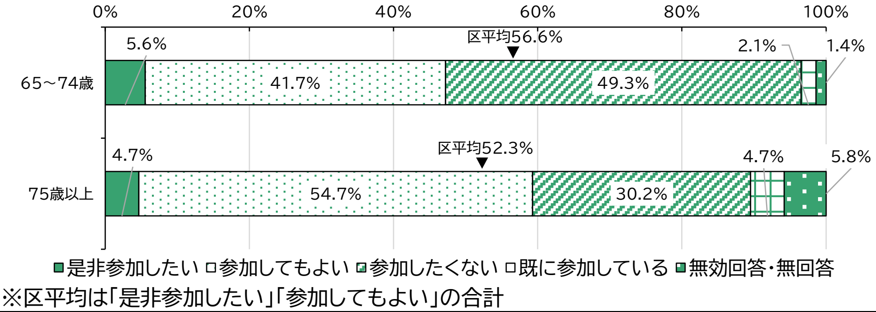
【ニーズ調査におけるリスク傾向】(令和4年度大田区高齢者等実態調査の結果より)



各指標について、おおむね区全体の傾向と同様となっていますが、「閉じこもり」や「認知機能」については区全体よりもリスク判定割合が低くなっています。

また、男性は「運動機能」のリスク判定割合が低いという特徴も見られます。

【地域づくりへの参加意向】(令和4年度大田区高齢者等実態調査の結果より)



※区平均は「是非参加したい」「参加してもよい」の合計

前期高齢者は、地域づくりへの参加意向があるとの回答が5割未満であり、区平均を下回っています。

他方、後期高齢者は約6割が地域づくりへの参加意向があると回答しており、区平均を上回っています。

糀谷地域における高齢者の健康づくりの状況

【「大田区シニアの健康長寿に向けた実態調査2022」の結果より】

	男性（区平均）	女性（区平均）
フレイル該当率	45.3%（40.1%）	34.1%（29.7%）
１週間当たりの歩行時間150分以上	47.3%（43.1%）	40.7%（37.3%）
筋力運動の実践者	18.2%（22.4%）	25.4%（28.3%）
体操・ストレッチの実践者	17.1%（20.8%）	26.2%（30.8%）
１kmの連続歩行ができる	28.7%（26.3%）	30.0%（27.4%）

	男性（区平均）	女性（区平均）
食品摂取の多様性得点3点以下	71.1%（65.6%）	57.5%（49.1%）
抑うつの割合	45.2%（40.2%）	43.5%（41.9%）
社会的孤立の該当者	56.6%（51.7%）	34.0%（30.6%）
月に1回以上社会活動に参加している	25.4%（29.1%）	33.6%（39.2%）

【地域の通いの場】

認知症予防・認知症カフェ	１団体
体操	３団体
趣味活動	１団体
茶話会・会食	１団体
その他	０団体

※複数団体ある施設

糀谷文化センター	認知症関連1団体、体操1団体、茶話会・会食1団体

※点線はバスの路線図となります。

糀谷地域の課題と取組

【地域の現状と課題】

（現状）

〇地域のつながりが強く、地域内の町会がまとまっている。一方、地域活動の担い手が高齢化、減少し、支援する側からされる側になり、ここ数年で大きく変化している。

〇自治会・町会、福祉施設、区との連携による「糀谷　夏のおまつり」をはじめ、「福祉のまち糀谷」の取組や、フレイル予防を主眼としたコミュニティ活動が、コロナ禍を越え、途絶えることなく行われている。

〇少子高齢や核家族化により世帯の高齢化が進んでいるが、地域で見守り、支えていく意識が強い。

〇高齢男性の引きこもりが増えている。

（課題）

〇地域活動の担い手確保、活動の継承が、取組の発展のために急務である。

〇地域で支えていく意識があるため、一人ひとりの問題が顕在化しづらくなる場合がある。

〇高齢男性を地域のネットワークの中へ取り込んでいく。

【課題への取組】

〇自治会・町会や民生委員による活動を支えるとともに、次世代が参加しやすい仕掛けや、活動の負担感の軽減を図り、誰にとっても「自分事」で、持続可能な活動としていく。

〇複合的な課題のある世帯に対して、区、関係機関、地域住民が連携し、きめの細かい見守りや、身近な相談機関である地域包括支援センターにつなぐなど、重層的に支援していく。

〇特に高齢男性の活動の活性化に向け、シニアステーションや文化センターとも協力し、健康管理への着眼や、文化活動等多様な活動の場を増やす。

〇学校、図書館、児童館などとも協力し、次世代との関係構築を図る。

羽田

地域データ

【地域の人口等】

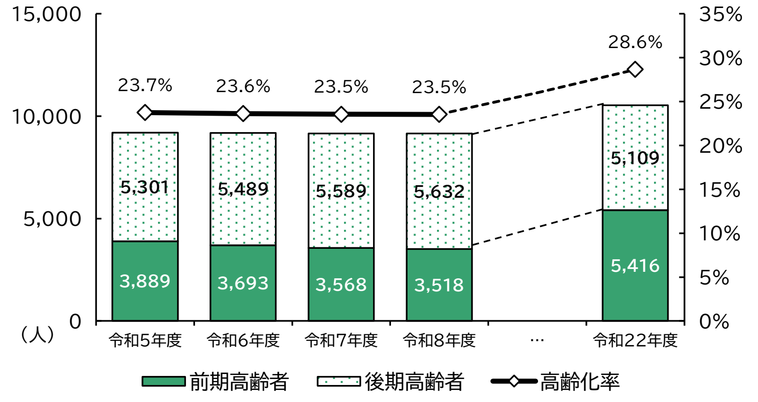
管轄人口：38，716 人
高齢者数：9，190 人（23.7％）
（うち単身高齢者数：3，403 人）

単位：人

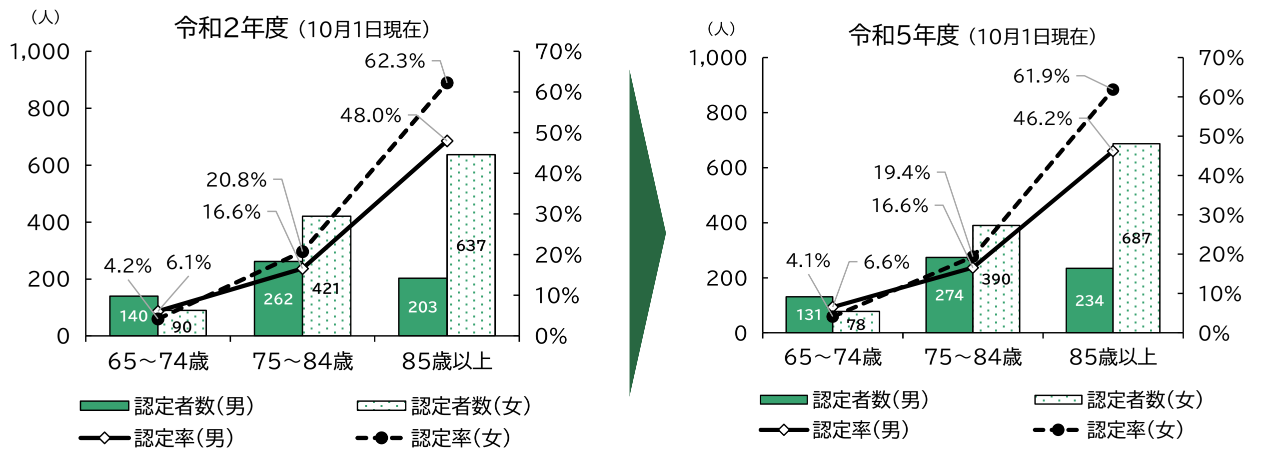
	男性	女性
0～14歳	1，847	1，720
15～64歳	13，540	12，419
65～74歳	2，000	1，889
75歳以上	2，167	3，134
単身高齢者	1，414	1，989

見守りキーホルダー登録者数：2,647 人

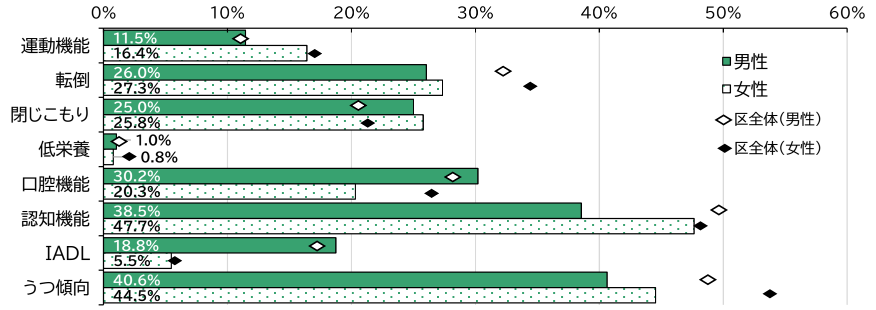
【高齢者人口の将来推計】



【要介護認定率の推移】

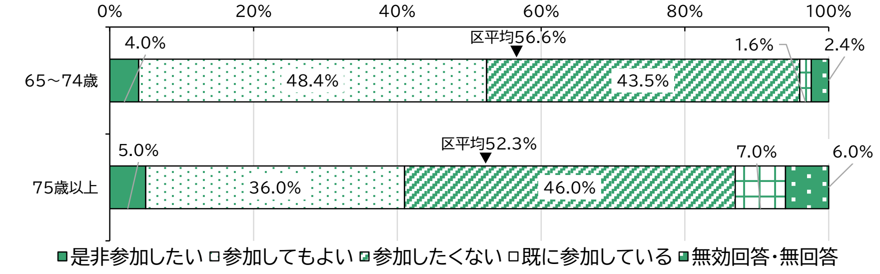


【ニーズ調査におけるリスク傾向】（令和4年度大田区高齢者等実態調査の結果より）



各指標について、おおむね区全体の傾向と同様となっていますが、「閉じこもり」について男女ともに区全体よりリスク判定割合が高くなっています。
また、男性では「口腔機能」や「IADL」の割合が区全体よりも高いという特徴が見られます。

【地域づくりへの参加意向】（令和4年度大田区高齢者等実態調査の結果より）



※区平均は「是非参加したい」「参加してもよい」の合計

前期高齢者は約5割、後期高齢者は約4割が、地域づくりへの参加意向があると回答していますが、区平均を下回っています。
なお、後期高齢者は 7.0％が「既に参加している」と回答しており、前期高齢者よりも割合が高くなっています。

羽田地域における高齢者の健康づくりの状況

【「大田区シニアの健康長寿に向けた実態調査2022」の結果より】

	男性（区平均）	女性（区平均）
フレイル該当率	50.4%（40.1%）	32.3%（29.7%）
１週間当たりの歩行時間150分以上	49.2%（43.1%）	37.9%（37.3%）
筋力運動の実践者	11.9%（22.4%）	26.2%（28.3%）
体操・ストレッチの実践者	15.7%（20.8%）	27.6%（30.8%）
１kmの連続歩行ができる	30.9%（26.3%）	36.4%（27.4%）

	男性（区平均）	女性（区平均）
食品摂取の多様性得点3点以下	74.1%（65.6%）	54.6%（49.1%）
抑うつの割合	41.4%（40.2%）	42.3%（41.9%）
社会的孤立の該当者	61.1%（51.7%）	31.9%（30.6%）
月に1回以上社会活動に参加している	28.3%（29.1%）	34.5%（39.2%）

【地域の通いの場】

認知症予防・認知症カフェ	0 団体
体操	15 団体
趣味活動	2 団体
茶話会・会食	4 団体
その他	0 団体

※複数団体ある施設

萩中集会所	体操2団体、茶話会・会食1団体
プラムハイツ本羽田	体操2団体、趣味活動2団体、茶話会・会食1団体
萩中公園	体操2団体

※点線はバスの路線図となります。
※羽田空港は記載を省略しております。

羽田地域の課題と取組

【地域の現状と課題】

（現状）
〇本羽田、萩中、羽田、羽田旭町の、それぞれの地域に、歴史的背景やそれに伴う地域特性がある。
〇食生活や喫煙等の習慣、閉じこもりや社会的孤立が高い傾向などが、複合的な課題につながりかねないリスクを高めている。
〇銭湯や地域に根付いていた商店などがなくなり、買い物や入浴に困る高齢者が増えている地域がある。
〇南北方向の交通が不便。

（課題）
〇自治会・町会、民生委員など、地域活動の担い手が全体的に減少、高齢化が進み、活動の後継者がおらず、継続が難しくなってきている。地域活動づくりへの参加意向も、参加を望まない層が大きく増加している。
〇男性、女性ともに、「閉じこもり」のリスク判定の割合が大田区の平均より高く、「フレイル該当率」も高い。
〇体力の低下により、環八通り、産業道路を渡れなくなると、活動範囲が急激に狭くなる。

【課題への取組】

〇自主グループ懇談会や民生委員との勉強会などを通じ、新たな担い手の活動への参加策を具現化していく。
〇シニアステーション羽田と連携し、高齢者の社会的孤立を予防するための講座を開催する。閉じこもりの改善だけでなく、認知症予防やフレイル予防にもつなげていく。
〇複合化課題のある世帯へのきめ細かい取組を地域包括支援センター、事業所、区の緊密な連携で行う。
〇地域力推進羽田地区委員会　地域課題解決分科会で、地域課題の解決に向けた話し合いを行う。